

給料取扱者事務必携

京都市人事課

318.13

Ky 6

×
複写



0008599000

0008599-000

318.13-Ky6ウ

給与取扱者事務必携

京都市人事課

ABI

318.13

Ky 6

凡例

一、本必携ハ主トシテ給料取扱者ノ利便ニ供スル爲特ニ重要ト認メラルノモノヲ蒐録シタルモノナリ

二、本必携編輯後ニ於テ規程ノ改廢等アリタル場合ハ速ニ補正シ執務上過誤ナキヲ期セラレタシ

三、卷末ニ添付シタル白紙ハ關係規程ノ新ニ制定ノ場合其ノ規程ノ登載セラレタル市公報等ヲ貼付スルノ便ニ供シタルモノナリ

昭和十九年六月

京都市人事課



983
114

目次

- 一、京都市有給吏員給料支給規則……………一
- 一、京都市雇員傭人給料支給規程……………三
- 一、戰時、事變應召者給料支給特例ニ關スル條例……………五
- 一、改正陸軍給與令抄……………七
- 一、改正海軍給與令抄……………九
- 一、入營職員ノ處遇ニ關スル件……………一一
- 一、京都市職員臨時手當支給規程……………一二
- 一、臨時手當支給ニ關スル件 臨時手當支給計算例……………一六
- 一、京都市臨時家族手當支給規程……………二〇

- 一、京都市職員戰時勤勉手当支給規程……………二九
- 一、臨時精勤手当支給規程……………三一
- 一、戰時勤勉手当、戰時精勤手当並ニ臨時手当
臨時家族手当支給ニ關スル件通牒……………三二
- 一、臨時家族手当支給規程扶養家族中弟妹ノ取扱方ニ關スル件……………三三
- 一、京都市傭員年功加給給與規程……………三五
- 一、同施行細則……………三六
- 一、結核性呼吸器病患者給料支給支給特例ニ關スル條例……………三七
- 一、結核性呼吸器病罹患職員ノ措置ニ關スル規程……………三八
- 一、手当金支給規程……………四一
- 一、定傭夫給料割當並減額ニ關スル件……………四三

- 一、京都市賄料支給規程……………四四
- 一、賄料支給ニ關スル件……………四六
- 一、夜勤辨當料支給ニ關スル件……………四七
- 一、被服代料支給ニ關スル件……………四八
- 一、京都市吏員除服出仕規程……………五〇
- 一、吏員職員休暇ニ關スル件……………五二
- 一、掃除監視吏員休暇ニ關スル件……………五三
- 一、戰時事變召集解除者休暇ニ關スル件……………五四
- 一、特別休暇附與ニ關スル件……………五五
- 一、京都市旅費規則……………五六

一、同	施行細則	六二
一、日額認定旅費支給ノ件		六八
一、市外出張ニ關スル件		七二
一、京都市職員共濟組合條例		七二
一、京都市職員共濟組合金融規程		一一六
一、京都市職員共濟組合團體保險取扱規程		一一九
一、京都市職員銃後會規程		一二二
一、京都市職員國民貯蓄組合規約		一三四
一、京都市職員國民貯蓄組合事務取扱ニ關スル件		一三八
一、陸軍々醫豫備員候補者處遇ニ關スル件		一三九

京都市有給吏員給料支給規則

(大正十一年四月十一日
市告示第一三九號)

- 第一條 本市有給吏員ノ給料ハ別ニ市長ノ定ムル期日ニ於テ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス
- 一、年俸ハ其ノ十二分ノ一
- 二、月俸ハ其ノ月分
- 第二條 新任者ノ其ノ月分ノ給料ハ市長、助役、考査役、收入役及副收入役ニ在リテハ選任ノ日其ノ他ノ吏員ニ在リテハ其ノ職ニ就キタル日ヨリ起算シ日割ヲ以テ之ヲ支給ス
- 第三條 給料ヲ増額シ又ハ減額シタル場合ニ於ケル其ノ月分ノ給料ハ日割ヲ以テ計算シ發令ノ當日迄ハ從前ノ給料額、翌日以後ノ新給料額ニ依リ之ヲ支給ス、給料支給停止ノトキ又ハ轉任、轉勤ノ爲給料支出科目ニ變更ヲ生スル場合亦之ニ準ズ
- 第四條 轉勤又ハ減給ニ依リ給料ニ過渡アルトキハ其ノ際之ヲ返納スベシ
- 第五條 休職、退職、解職又ハ死亡ノトキハ其ノ際當月分ノ給料全額ヲ支給ス但シ懲戒處分ニ依リ解職セラレタル者ハ發令當日迄日割ヲ以テ支給ス

第六條 休職、退職又ハ解職ノ者事務引繼又ハ殘務整理ノ爲特ニ命ヲ受ケ執務シタル時ハ其ノ間日割ヲ以テ仍從前ノ給料ヲ支給ス但シ既ニ支給ヲ受ケタル月ノ分ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 休職者復職ヲ命セラレタルトキ又ハ轉任シタルトキハ第二條及第三條ノ規定ヲ準用ス

第八條 疾病又ハ負傷ニ因リ執務セザル者日數、九十日以後ハ日割ヲ以テ其ノ給料ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ハ此ノ限ニ在ラズ願濟旅行其ノ他私事ノ故障ニ依リ執務セザル者日數三十日以後ハ日割ヲ以テ其ノ給料ノ半額ヲ減ス私事ノ故障ト疾病又ハ負傷ノ場合ト連續スルトキハ之ヲ通算セズ

第八條ノ二 健康保險法ノ適用ヲ受クル吏員ニシテ疾病、負傷又ハ分娩ニ因リ執務セザル者ニ對シテハ前條ノ規定ニ拘ラズ其ノ間給料ノ支給ヲ停止ス但シ健康保險法ニ依リ傷病手當金又ハ出産手當金ノ給付ヲ受クベキモノニ非ザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 死亡者ノ給料ニシテ法定ノ受給者ナキトキハ死亡者トノ關係ヲ斟酌シテ親族其ノ他ノ者ニ之ヲ支給スルコトアルベシ

第十條 日割計算ノ法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル

附 則

給料支給規則ハ之ヲ廢止ス

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

本規程ハ昭和二年一月一日以後ノ給與ニ之ヲ適用ス

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和二年二月)

京都市雇員傭人給料支給規程

(昭和二年二月十日 市達第一一號)

第一條 本市雇員及傭人ノ給料ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外本規程ニ依リ之ヲ支給ス

第二條 月俸ノ支給ニ付テハ本市有給吏員給料支給規程ヲ準用ス

第三條 日給ハ執務ノ日數ニ應ジ之ヲ支給ス

第四條 日給ヲ増額シ又ハ減額シタル場合ニ於テハ發令ノ當日迄ハ從前ノ給料額、其ノ翌日以後ハ新給料額ニ依リ之ヲ支給ス轉勤ノ爲給料支出科目ニ變更ヲ生ズル場合亦之

ニ準ズ

第五條 左ニ掲グル日ハ日給ノ支給ニ付テハ之ヲ執務シタル日ト看做ス

一 休日(其ノ前日缺勤シタル場合ヲ除ク)

二 休暇、忌引、父母祭日

三 公務ノ爲疾病ニ罹リ又ハ負傷シタルニ因リ執務シ能ハザル日

四 徴兵検査(志願兵ノ身體検査ヲ含ム)ノ當日

五 簡閲點呼參會ノ當日

六 演習召集應召期間(本市ヨリ應召部隊へ往復スルニ必要ナル日數共)

第六條 本市職工扶助規程ノ適用ヲ受クル者ニシテ業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ執務セザル者ニ對シテハ前條ノ規定ニ拘ラズ其ノ間給料ノ支給ヲ停止ス

健康保險法ノ適用ヲ受クル者ニシテ疾病又ハ負傷ノ爲執務セザル者ニ對シ亦同シ但シ健康保險法ニ依リ傷病手當金ノ給付ヲ受クベキモノニ非ザルトキハ此ノ限りニ在ラズ

第七條 日給ハ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日迄ノ分ヲ別ニ定ムル期日ニ之ヲ支給ス但シ三月二十一日ヨリ三十一日迄ノ分ハ三月三十一日ヲ以テ打切ルモノトス

解傭又ハ死亡シタル者ニ對スル給料ハ前項ノ期日ニ拘ラズ其ノ際之ヲ支給ス

第八條 死亡者ニ對スル給料ニシテ之ヲ受取ルベキ權利者ナキ場合ニハ死亡者トノ關係ヲ斟酌シ親族其ノ他ノ緣故者ニ之ヲ支給スルコトアルベシ

附 則

本規程ハ昭和二年一月一日以後ノ給與ニ之ヲ適用ス大正十一年四月市達第八十號ハ之ヲ廢止ス

戰時、事變應召者給料支給特例ニ關スル條例(昭和十二年九月十七日市條例第二一號)

第一條 戰時若ハ事變ニ際シ兵役法第五十四條、徵發令、國民徵用令其ノ他ノ法令ニ依リ召集、徵發又ハ徵用セラレタル本市有給吏員及雇傭員ニシテ引續キ本市ニ在職セシムル者ニ對シテハ他ノ規程ニ拘ラズ本條例ノ定ムル所ニ依リ其ノ召集、徵發又ハ徵用ノ期間中仍從前ノ給料ヲ支給ス但シ陸軍給與令、海軍給與令、徵發令、國民徵用令其ノ他ノ法令ニ依リ受クル本俸、賃價又ハ之ニ準ズベキ給與ニ相當スル金額ハ之ヲ控除

ス

第二條 前條但書ニ依リ控除スベキ本俸額ハ召集當時ノ階級ニ對シ給與セラルベキ金額トス但シ一階級ニ付等級ノ區分アルモノニシテ其ノ支給セラルベキ等級判明シ難キ場合ニ在リテハ其ノ最下級ノモノニ依ル徵發又ハ徵用ノ場合ニ於テ控除スベキ賃價額、本俸額又ハ之ニ準ズベキ給與額ハ最初ニ支給セラレタルモノニ依ル

第二條ノ三 戰時若ハ事變ニ際シ日本赤十字社救護員トシテ召集セラレタル者ノ給料支給ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第二條ノ三 戰時若ハ事變ニ際シ徵集ニ依リ現役兵トシテ入營シタル本市有給吏員及雇傭員ニシテ本市ニ在職セシムル者志願ニ依ラズシテ入營ノ日ヨリ陸軍ニ在リテハ二年海軍ニ在リテハ三年ヲ超エテ服役スルニ至リタル場合ノ給料支給ニ關シテハ第一條及第二條ノ規定ヲ準用ス

第三條 第一條及前條ノ雇傭員ノ範圍、給料支拂ノ方法其ノ他本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ市長之ヲ定ム

六

附 則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年市公告第六十二號陸海軍應召者給與規程ハ之ヲ廢止ス

附 則

(昭和十四年市條例第二三號)

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本條例施行前ニ國民徵用令ニ依リ徵用セラレ又ハ日本赤十字社救護員トシテ召集セラレタル者ニ付テハ徵用又ハ召集ノ日ニ遡リテ之ヲ適用ス

附 則

(昭和十六年市條例第二八號)

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

改正陸軍給與令抄

七

陸軍俸給額

階級			階級			階級			階級	等級	給料月額						
三等	二等	一等	尉少	尉中	尉大	尉	見習士官	尉									
八五〇〇〇	九五〇〇〇	一一〇〇〇〇	七〇・八三〇	八五・〇〇〇	九四・一六〇	一一二・五〇〇	一三七・五〇〇	一五五・〇〇〇									
曹軍			長曹			見習士官			階級	等級	給料月額						
曹	軍	長	曹	曹	曹	見習士官	見習士官	尉									
								四等									
二二・〇〇〇	二六・〇〇〇	三〇・〇〇〇	三二・〇〇〇	三五・〇〇〇	七〇・〇〇〇	七五・〇〇〇	四〇・〇〇〇	八〇・〇〇〇									
考備			兵化教		兵等二		兵等一		兵等上		長兵		長伍		階級	等級	給料月額
					乙 甲												
					六・〇〇〇		九・〇〇〇		一〇・五〇〇		一三・五〇〇		二〇・〇〇〇				
					三・〇〇〇		九・〇〇〇		一〇・五〇〇		一三・五〇〇		二〇・〇〇〇				

昭和十八年八月

海軍給與令

(昭和十八年一月)

第二章 俸給

第六條 軍人ニハ第一表ニ依リ俸給ヲ給ス
海軍々々人俸給表

官					士					階級別	年	俸
各科少尉	二級	各科中尉一級	三級	二級	各科大尉一級	二級	三級	二級	各科大尉一級			
八五〇〇〇	一〇二〇〇〇	一、一三〇〇〇	一、四七〇〇〇	一、六五〇〇〇	一、九〇〇〇〇							
官					士					階級別	年	俸
二級	各科少尉一級	二級	各科中尉一級	二級	各科大尉一級	二級	三級	二級	各科大尉一級			
一、三六八・〇〇〇	一、四七〇・〇〇〇	一、六三〇・〇〇〇	一、七四〇・〇〇〇	一、九一〇・〇〇〇	二、〇七〇・〇〇〇							
官					士					階級別	年	俸
四級	三級	二級	准士一級官	候補生見習尉官	准士一級官	二級	三級	四級	候補生見習尉官			
	九六〇・〇〇〇	一、〇四三・〇〇〇	一、一五〇・〇〇〇	一、三二〇・〇〇〇	六七〇・〇〇〇							

士		下			階級別	月	額
一等下士官 一級	四級	三級	二級	上等下士官 一級			
三〇・〇〇〇	三五・〇〇〇	四二・〇〇〇	七〇・〇〇〇	七五・〇〇〇			
		官			階級別	月	額
兵長	兵(特別俸)長	二級	二等下士官 一級	二級			
一六・〇〇〇	一八・〇〇〇	二二・〇〇〇	二四・〇〇〇	二八・〇〇〇			
		兵			階級別	月	額
		二等兵	一等兵	上等兵			
		六・五〇〇	一一・〇〇〇	一三・五〇〇			

入營職員ノ處遇ニ關スル件

(發秘乙第八二一號
昭和十六年八月十二日)

時局ニ鑑ミ銃後後援ノ萬全ヲ期スル爲本市吏員雇傭員ニシテ徵集ニ依リ入營シタルトキハ戰時又ハ事變中ニ限リ左記ノ通取扱フコトニ決定相成候條御了知相成度依命此段及通牒候也

記

- 一、本市吏員雇傭員ニシテ徵集ニ依リ入營シタルトキハ休職ヲ命スルモノトス但シ其休職期間ハ入營ノ日ヨリ退營後六十日以内トス
 - 二、休職中ノ入營者退營シタルトキハ本人ノ願出ニ依リ復職セシム、但シ入營者職業保障法第二條第一項但書各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 - 三、休職中ノ入營者志願ニ依ラスシテ陸軍ニ在リテハ二年海軍ニ在リテハ三年ヲ超エテ服役スルニ至リタルトキハ其際復職シタルモノト看做シ爾後戰時事變應召者給料支給特例ニ關スル條例ヲ適用ス
- 前項ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ在營部隊ノ證明ヲ添へ所屬長ヲ經テ其ノ旨届

出ツベシ

四、入營中志願ニ依リ一般現役兵ノ服役期間ヲ超エテ服役スルニ至リタルトキハ其際解職ス

五、本通牒ハ入營ノ際勤績六ヶ月ニ滿タザル者ニ對シテハ之ヲ適用セズ

六、現ニ入營中ノ者ニ付テハ本人ノ願出ニ依リ再採用シ同日以降本通牒ヲ適用スルコトヲ得但シ志願ニ依リ一般現役兵ノ服役期間ヲ超エテ現ニ服役中ノ者及入營ノ際前號ノ規定ニ該當シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

京都市職員臨時手當支給規程

(昭和十六年六月二十五日
京都市訓令甲第二十一號)

第一條 本市ニ在職スル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ當分ノ間臨時手當ヲ支給ス但シ實收月額百六十五圓以上ノ者、休職中ノ者、國民徵用令ニ依リ徵用セラレタル者竝ニ勤績六月未滿ノ臨時雇傭員及日勤セズ又ハ本務トセザル者ヲ除ク

一 吏員、市費支辨ニ係ル地方產業職員制ニ依ル職員

二 雇員、囑託員竝ニ傭員

三 學校及幼稚園ノ雇傭員

第二條 臨時手當ノ額ハ給料月額ノ一割五分ニ相當スル金額トス但シ前條第一號該當者ニ在リテハ其ノ金額十五圓ヲ超ユルトキハ十五圓、七圓ニ滿タザルトキハ七圓トシ其ノ他ノ者ニ在リテハ其ノ金額十圓ヲ超ユルトキハ十圓トス

實收月額ニ前項ノ手當額ヲ合シ月額百六十五圓ヲ超ユルトキハ臨時手當ノ支給額ハ實收月額ト合シ百六十五圓ニ滿ツル迄ノ額トス

前項ニ依リ算出シタル手當額ニ錢位未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツルモノトス

第三條 第一條但書竝ニ前條第二項ノ規定ニ依ル實收月額トハ給料又ハ手當月額(年俸又ハ年手當ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ十二分ノ一、日給ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ三十日分)ニ左ノ給與ノ月額ヲ合算シタル額ヲ謂フ但シ圓位未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツルモノトス

一、現業手當

二 運轉手當

三 步増給、現業員手當及時間外勤務手當ノ類

四 年功加給

五 普通恩給及退隱料

六 其ノ他毎月又ハ定期ニ定額又ハ定率ヲ以テ給與スルモノ但シ實費辨償ノ性質ヲ有スル給與竝ニ臨時家族手當、戰時勤勉手當及臨時精勤手當ヲ除ク

實收月額中日、時間、稼高等ニ依リ支給スルモノニ付テハ前年四月ヨリ三月ニ至ル平均月額ヲ以テ其ノ年四月ヨリ翌年三月迄ノ月收額ト看做ス

前項ニ據リ難キモノニ付テハ本手當支給前ノ平均實收月額ヲ以テ翌年三月迄ノ月收額ト看做ス

第四條 臨時手當ハ毎月給料又ハ手當支給ノ日ニ其ノ月分ヲ支給ス但シ月二回以上ニ亘リ給料ヲ支給スル場合ハ最後ノ支給日トシ給料又ハ手當支給日前ニ退職、休職又ハ死亡シタルトキハ其ノ月分ヲ其ノ際支給ス

第五條 新任者ニ對スル其ノ月分ノ臨時手當ハ其ノ職ニ就キタル日ヨリ起算シ日割ヲ以

テ之ヲ支給ス

第六條 疾病又ハ負傷ニ因リ執務セザル者日數九十日ヲ超ユルトキハ以後日割ヲ以テ本手當ノ半額ヲ減ズ但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 私事ノ故障ニ依リ執務セザル者ニ對スル本手當ノ支給ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ行フモノトス

一 年俸又ハ月俸ヲ受クル者ニ在リテハ執務セザル日數三十日ヲ超ユルトキハ以後日割ヲ以テ本手當ノ半額ヲ減ズ

二 日給ヲ受クル者ニ在リテハ執務セザル日數ニ付日割ヲ以テ本手當ノ支給ヲ減ズ

第八條 私事ノ故障ト疾病又ハ負傷ト連續スルトキハ之ヲ通算セズ

第九條 本規程ニ定メナキ事項ニ付テハ有給吏員給料支給規程ヲ準用ス

附 則

本規程ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

附 則

本規程ハ昭和十七年十一月一日ヨリ之ヲ適用ス

臨時手当支給ニ關スル件

(昭和十七年九月二十二日)
發秘乙第四六一號

本市職員臨時手当支給上左ノ點ニ付疑義アル向有之哉ニ見受ケラレ候條爲念及通知候也

記

一 臨時手当ノ支給ヲ受クル者休、退職又ハ死亡ノ場合ニ於テ増俸、昇給アリタル者ノ其ノ月分ノ支給額算出ニ付テハ當日迄ハ從前ノ給料額ヲ基礎トシ翌日以後ハ新給料額ヲ基礎トシテ算出スルモノトス

二 規程第六條及第七條ニ依リ取扱フベキ者休、退職又ハ死亡ノ場合ニ於ケル其ノ月分ノ臨時手当支給額算出ニ付テハ當日迄ハ規定ニ依ル支給額ヲ基礎トシ以後殘餘日數ニ對シテハ全支給額ヲ基礎トシテ算出スルモノトス

例

- 1 半額支給ヲ受クベキ者月ノ十日ニ退職シタルトキ一日ヨリ十日迄ハ半額支給ノ割合以後二十日間ハ全額支給ノ割合ニ依リ計算スルモノトス
- 2 日給者ニシテ私事故障ニ依リ執務セザル日數ニ付減額支給ヲ受クベキ者月ノ十五

日ニ退職シタルトキ一日ヨリ十五日迄ハ減額支給ノ割合、以後十五日間ハ全額支給ノ割合ニ依リ計算スルモノトス

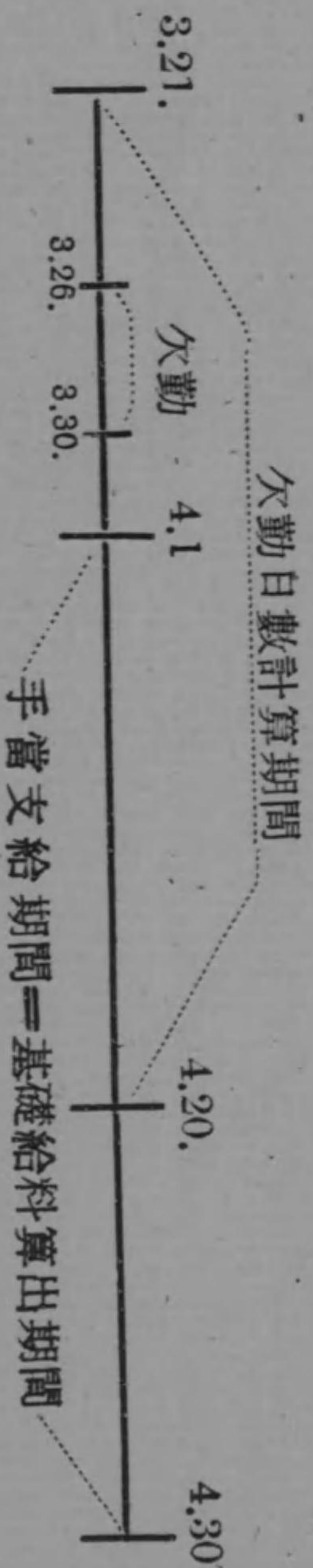
(以上休職又ハ死亡ノ場合亦同シ)

三 規程第七條第二號ニ依リ前月二十一日ヨリ引續キ執務セザル爲其ノ月ノ給與ヲ受ケ難キ者休、退職又ハ死亡ノ場合ニ於テハ其ノ月分ノ臨時手当ハ支給セラレザルモノトス

臨時手当支給計算例

一 四月分ノ計算例(日給ノ場合)

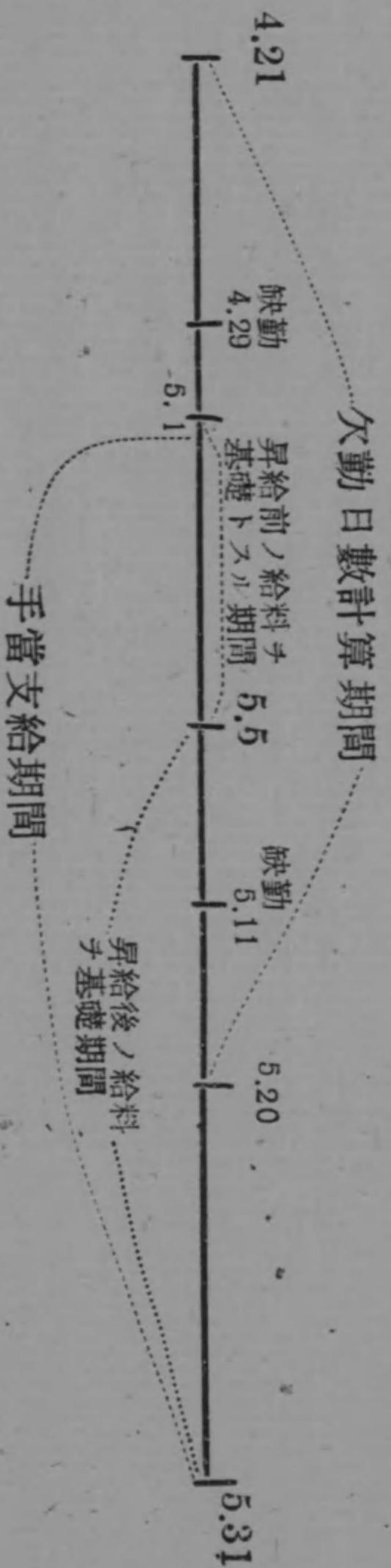
日給1圓(4月1日現在) 3月26日——30日迄欠勤(事故)



$$\frac{1\text{圓} \times 30 \times 0.15 \times (30 - 5)}{30} = 3\text{圓}75\text{錢} (\text{手當支給額})$$

二 昇給シタル場合(日給者)

5月5日 日給1圓ヨリ 1圓10錢ニ昇給 4月29日及5月11日欠勤(事故)



$$\frac{1\text{圓} \times 30 \times 0.15 \times (5 - 1) + 1\text{圓}10 \times 30 \times 0.15 \times (26 - 1)}{31} = 4\text{圓}57\text{錢} (\text{手當支給額})$$

三 日給者ヨリ月俸者トナリタル場合

6月16日 日給1圓ノ助手ヨリ月俸45圓ノ雇トナル 5月25日欠勤(事故)

$$\frac{1\text{圓} \times 30 \times 0.15 \times (15 - 1) + 45\text{圓} \times 0.15 \times 15}{30} = 5\text{圓}47\text{錢}$$

尚本例ノ場合ニ於テ前月21日ヨリ雇昇格迄ノ間ニ於テ欠勤16日以上アルトキハ日給者トシテノ欠勤ニ依ル減額支給ハ15日ヲ以テ打切り、雇トシテノ手當額中ヨリ控除セザルモノトス

四 昇格 昇給ノ場合 (雇ヨリ書記リ)

6月13日附 雇月俸80圓ヨリ 書記月俸85圓ニ昇格、昇給

$$\frac{10\text{圓} \times 12 + 85\text{圓} \times 18 \times 0.15}{30} = 12\text{圓}07\text{錢}$$

支給額 12圓7錢

昇給シタル場合 (月俸者)

8月2日附 技手月俸88圓ヨリ 月俸105圓ニ昇給ノ場合

$$\frac{88\text{圓} \times 2 \times 0.15 + 15\text{圓} \times 29 \times 14\text{圓}88\text{錢}}{31}$$

規程第二條但書前段ニヨリ 支給額 15圓

昇給シタル場合 (日給者)

9月11日附 使丁日給2.20圓ヨリ 2.35圓ニ昇給

$2.20 \times 30 \times 0.15 \times 11 + (10圓) \times 29$

30

=9圓96錢

規程第二條但書後段ニヨリ 支給額 10圓

京都市臨時家族手当支給規程

(昭和十七年八月六日)
京都市訓令甲第二十六號

第一條 本市吏員、雇員、傭員及之ニ準ズル者(以下職員ト稱ス)ニシテ扶養家族ヲ有スル者ニ對シ本規程ノ定ムル所ニ依リ當分ノ間臨時家族手当ヲ支給ス但シ左ニ掲グル者ヲ除ク

- 一 常時勤務ニ服ズルヲ本旨トセザル囑託
- 二 休職中ノ者
- 三 勤續六月未滿ノ臨時囑託及臨時傭員
- 四 他ノ官公署ヨリ臨時家族手当ノ支給ヲ受クル者

第二條 本規程ニ於テ扶養家族ト稱スルハ職員ト同一戶籍内ニ在ル左ニ掲グル者ニシテ

主トシテ職員ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ヲ謂フ

- 一 配偶者
- 二 滿六十歲以上ノ父母、祖父母
- 三 滿十八歲未滿ノ子及孫(養子縁組ニ因ル者ニ就テハ法定推定家督相續人ニ限ル)
- 四 滿十八歲未滿ノ弟妹
- 五 不具廢疾者(日常生活ニ於テ常ニ介護ヲ要スル状態ニ在ル者)
内縁關係ニ在ル者(民法第七百七十五條ノ届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ謂フ)ハ前項第一號ノ適用ニ付テハ之ヲ配偶者ト看做ス

第三條 削除

第四條 臨時家族手当ノ額ハ月額五圓ニ扶養家族ノ員數ヲ乘ジテ得タル金額トス

第五條 削除

第六條 削除

第七條 臨時家族手当ノ支給ヲ受ケントスル者ハ別記第一號様式ニ依ル扶養家族届ニ戶籍謄本又ハ家留謄本ヲ添へ所屬長ニ提出スベシ但シ本市ニ本籍ヲ有シ又ハ寄留スル者

ニ在リテハ別記第三號様式ニ依ル扶養家族調ニ對スル區長ノ證明ヲ以テ戶籍謄本又ハ寄留謄本ニ代フルコトヲ得

前項ノ外内縁關係ニ在リテハ町會長又ハ部落會長ノ證明書、不具廢疾者ニ在リテハ醫師ノ證明書ヲ提出スベシ

第八條 臨時家族手當ノ支給ヲ受クル者其ノ扶養家族ニ異動ヲ生ジタル場合ハ速ニ別記第四號様式ニ依リ扶養家族異動届ヲ所屬長ニ提出スベシ

扶養家族増加ノ場合ハ前項届書ニ前條ニ規定スル證憑書類ヲ添附スベシ

第九條 前二條ノ書類ヲ受理シタル所屬長ハ審査ノ上其ノ支給額ヲ決定スベシ

第十條 職員應召中ノ場合ニ於ケル第七條及第八條ノ手續ニ付テハ本人ノ家族之ヲ代理スルコトヲ得

第十一條 同一家族ヲ扶養スル職員二人以上アル場合ニ於テハ民法第九百五十五條ニ規定スル扶養義務者ノ順位(同順位内ニ在リテハ男ハ女ニ長ハ幼ニ先ツ)ニ依リ臨時家族手當ノ受給者ヲ定メ支給ス但シ特別ノ事情アルトキハ之ト異リタル取扱ヲ爲スコトヲ得

第十二條 臨時家族手當ノ支給開始、廢止又ハ變更ハ届出アリタル月ノ翌月ヨリ之ヲ行フ

第十三條 臨時家族手當ハ毎月給料又ハ手當支給ノ日ニ其ノ月分ヲ支給ス但シ月二回以上ニ亘リ給料ヲ支給スル場合ハ最後ノ支給日ニ給料又ハ手當支給日前ニ退職若ハ休職ヲ命ゼラレ又ハ死亡シタルトキ若ハ第一條但書ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ月分ヲ其ノ際支給ス

第十三條ノ二 疾病、負傷若ハ私事ノ故障ニ依リ其ノ月全ク給料又ハ手當ノ支給ヲ受ケザルトキハ臨時家族手當ハ之ヲ支給セズ

第十四條 轉職又ハ轉勤等ノ場合ニ於テハ其ノ月ノ十日現在ノ勤務先及其ノ費目ニ依リ之ヲ支給ス

第十五條 轉職又ハ轉勤者アリタル場合舊所屬長ハ速ニ關係書類ヲ新所屬長ニ移送スベシ

第十六條 臨時家族手當ノ支出手續ニ付テハ給料支出手續ノ例ニ依ル

第十七條 虚偽ノ届出又ハ届出ノ遅延ニ因リ不當ニ臨時家族手當ノ支給ヲ受ケタルトキハ既ニ支給ヲ受ケタル不當ノ手當ハ之ヲ返納セシメ發見ノ月以後ノ手當ハ總テ之ヲ支

給セザルコトアルベシ

附 則

第十八條 本規程ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ適用ス但シ昭和十七年四月一日以後昭和十七年八月六日迄ニ退職シタル職員ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第十九條 昭和十六年四月九日附發秘乙第三百八十八號通牒(臨時家族手當支給ノ件)ニ

基キ昭和十七年八月六日迄ニ爲シタル手續ハ之ヲ本規程ニ基キ爲シタルモノト看做ス

第二十條 本規程ニ依リ新ニ臨時家族手當ノ支給ヲ受ケ又ハ新ナル家族ニ就キ臨時家族手當ノ支給ヲ受ケ得ル者ハ直ニ所定ノ届出ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル者ニ對スル臨時家族手當ハ第十二條ノ規定ニ拘ラズ昭和十七年四月一日現ニ在職シ且ツ昭和十七年三月三十一日現在ニ於テ扶養家族アル者ニ對シテハ四月分ヨリ其ノ後就職シタル者又ハ扶養家族數増加シタル者ニ對シテハ其ノ支給ヲ受クベキ要件ヲ具備シタル月ノ翌月分ヨリ之ヲ支給ス

第二十一條 第二條第一項第三號括弧内ノ規定ニ依リ臨時家族手當ノ支給ヲ受ケ得ザルニ至リタル者ト雖モ昭和十七年八月六日以前ヨリ其ノ支給ヲ受ケ居リタル者ニ對シテ

ハ引續キ之ヲ支給ス

附 則

本規程ハ昭和十七年十一月一日ヨリ之ヲ適用ス但シ昭和十七年十一月一日以後昭和十七年十二月十日迄ニ退職シタル者ニ對シテハ之ヲ適用セズ本規程ニ依リ新ニ臨時家族手當ノ支給ヲ受ケ又ハ新ナル扶養家族ニ就キ臨時家族手當ヲ受ケ得ル者ハ直ニ所定ノ届出ヲ爲スベシ
前項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル者ニ對スル臨時家族手當ハ第十二條ノ規定ニ拘ラズ昭和十七年十一月分以後ヨリ之ヲ支給ス

第一號様式

扶養家族届(届出人※職名 氏 名)

扶養家族異動届記入欄	増加又ハ減少ノ區別	増加又ハ減少ノ月日	増加又ハ減少ノ理由	備考	※生年月日	※年齢	※届出人トノ續柄	※氏名

給料支出科目ニ依ル經濟別				届出人ノ俸給				月別扶養家族數及支給額				勤務先		夫ノ勤務先(出人が女子ノ場合記入ヲ要ス)							
月	月	月	月	月	月	月	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	氏名	氏名
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人		

※印欄ノミ届出本人ニ於テ記入ノコト

第二號様式 削除

第三號様式

扶養家族調(届出人職名氏名)

本籍地	寄留地	本人	扶養家族
		戸主ノ名及續柄	本人トノ續柄
		名	名
		生	生
		年	年
		月	月
		日	日

右事實相違無之哉

昭和 年 月 日

所屬長

右ノ通りニ候也

昭和 年 月 日

第四號様式

扶養家族異動届

受給者トノ續柄	生年月日	氏名	増加又ハ減少ノ月日	増加又ハ減少ノ理由

前記ノ通及御届候也

昭和 年 月 日

(所屬)

(職氏名印)

備考

「増加又ハ減少ノ理由」ノ欄ニハ左ノ如ク記入スルコト

増加——出生等

減少——死亡、満十八歳ニ達ス等

京都市職員戦時勤勉手当支給規程

(昭和十七年十二月十日
京都市訓令甲第四十一號)

第一條 本市ニ在職スル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ別ニ定ムル者ヲ除クノ外當分ノ間戦時勤勉手当ヲ支給ス但シ休職中ノ者、工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ勤務スル者、勤続六月未滿ノ臨時囑託及臨時傭員並ニ常時勤務ニ服スルヲ本旨トセザル囑託ヲ除ク

- 一 吏員並ニ雇員
- 二 囑託員並ニ傭員
- 三 學校及幼稚園ノ雇傭員

第二條 戦時勤勉手当ノ額ハ其ノ月分ノ給料又ハ手当支給額ノ十分ノ一ニ相當スル金額トス

第三條 疾病又ハ負傷ニ因リ執務セザル者日數九十日ヲ超ユルトキ又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セザル者日數三十日ヲ超ユルトキハ以後戦時勤勉手当ハ之ヲ支給セズ但シ公務ノ爲傷ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 戰時勤勉手当ヲ受クル者退職又ハ休職ヲ命ゼラレ若ハ死亡シタルトキハ其ノ月分ノ全額ヲ支給ス但シ日給ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ給料又ハ手當日額ニ其ノ月ノ現日數ヲ乗ジテ得タル金額ヲ基準トス

第五條 本規程ニ於テ給料又ハ手当支給額トハ京都市有給吏員給料支給規程、京都市雇員備人給料支給規程、手當金支給規程並ニ戰時、事變應召者給料支給特別ニ關スル條例及結核性呼吸器病患者給料支給特別ニ關スル條例ニ依リ支給スベキ給料又ハ手當支給額ヲ謂フ

但シ新ニ戰時勤勉手当ヲ受クルニ至リタル者ニ付テハ其ノ日以後ノ給料又ハ手當支給額ヲ謂フ

第六條 戰時勤勉手当ハ毎月給料又ハ手当支給ノ日ニ之ヲ支給ス

第七條 本規程ニ定ナキ事項ニ付テハ京都市有給吏員給料支給規程及京都市雇員備人給料支給規程ヲ準用ス

附 則

本規程ハ昭和十七年十一月一日ヨリ之ヲ適用ス但シ昭和十七年十一月一日以後昭和十七

年十二月十日迄ニ退職又ハ休職ヲ命ゼラレ若ハ死亡シタル者ニ對シテハ之ヲ適用セズ日給ヲ受クル者ニ對スル第二條ノ適用ニ付テハ昭和十七年十一月分ニ限り十一月一日ヨリ二十日迄ノ給料又ハ手当支給額ノ十分ノ一トス

附 則

本規程ハ昭和十七年十一月一日ヨリ之ヲ適用ス

臨時精勤手当支給規程

第一條 本市職員ニシテ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ勤務スル者ニ對シテハ昭和十七年十一月一日ヨリ當分ノ間臨時精勤手当ヲ支給ス

第二條 臨時精勤手当ノ支給ニ付テハ京都市職員戰時勤勉手当支給規程ヲ準用ス

附 則

本規程ハ昭和十七年十一月一日ヨリ之ヲ適用ス

戰時勤勉手當、戰時精勤手當並ニ臨時手當、

臨時家族手當支給ニ關スル件通牒

(昭和十七年十二月十日
發人乙第六七號)

戰時下ニ於ケル市政事務ノ急激ナル増加ハ蓋シ當然ナリト雖モ今ヤ戰局ノ新段階ニ即應スル爲ニハ新ナル一元的ニシテ包括的ナ組織ノ下ニ最モ迅速果敢ナル市政事務ノ運用ヲ期スルハ刻下喫緊ノ要務ナルニ鑑ミ今般本市ニ於テモ行政簡素化ヲ實施シ以テ國家ノ要請ニ應ズルト共ニ一方之ニ伴フ市職員ノ待遇改善ヲ圖ランガタメ昭和十七年十二月十日訓令甲第四十一號京都市職員戰時勤勉手當支給規程、同日訓令甲第四十二號戰時精勤手當支給規程、同日訓令甲第四十三號京都市臨時家族手當支給規程中改正ヲ行ヒ昭和十七年十一月一日ヨリ之ヲ適用スルコト、相成候ニ付テハ今次待遇改善ノ本旨ニ照シ之ガ趣旨ノ徹底ヲ圖ルト共ニ本件取扱ニ關シ遺憾ナキヲ期セラレ度依命通牒候也

追而京都市臨時家族手當支給規程第二條第四號(滿十八才未滿ノ弟妹)ノ適用ニ付テハ弟妹ノ生計費ノ概ネ全額ガ當該職員ノ收入ニ依リ維持セラル、場合ニ限り之ヲ扶養家族トシテ取扱ヒ濫給ニ失セザル様特ニ留意相成度尙本件認定ニ付テハ町會長又ハ部落

會長ノ證明書其ノ他必要事項ヲ具シ所屬長ヨリ人事課長ノ認定ヲ受ケラレ度尙臨時家族手當、臨時手當ノ支拂手續ニ關シテハ從來吏員、雇員、傭員ノ區別ニ依リ仕譯書作製相成候モ事務簡素上、爾後臨時家族手當、臨時手當(様式從前通)、戰時勤勉手當、戰時精勤手當ノ仕譯書作製ハ雇員(但シ月俸ヲ受クル傭員之ニ準ズ)以上及傭員ノ二種ニ區別シ支拂手續相成様致度

臨時家族手當支給規程扶養家族中弟妹ノ

取扱方ニ關スル件

(昭和十八年二月十日
發人乙第六〇號)

標記ノ件ニ關シテハ舊臘十日附ヲ以テ之ガ取扱方ニ付通牒相成候處尙裁定ノ正鵠ヲ期スルタメ弟妹ニ對スル臨時家族手當支給申請ニ際リテハ右通牒ニ依ルノ外別紙扶養家族調書ニ通添附ノ上申請相成度

右依命通牒候也

追而現ニ認定申請中ノ者ニ在リテハ本通牒ニ依ル扶養家族調書至急提出相成度爲念申添候

扶養家族調書

族	家 續 柄	申 請 者	其 ノ 請 者 及 氏 名	生 年 月 日	職 業 又 ハ 勤 務 先 及 申 請 者 職 名	收 入 月 額 種 類 金 額	同 、 別 居 別	家 族 手 當 受 給 ノ 有 無	同 上 有 リ ト セ バ ソ ノ 支 給 先	摘 要

記載注意

- 一 本表ハ同一戸籍内ニアル全家族ニ付調査スルコト
- 二 「申請者」欄ノ次欄(家族欄)ニハ申請者トノ續柄ヲ記載スルコト
- 三 職業又ハ勤務先欄中職業ナキモノハ「ナシ」ト記載シ在學中ノ者ハ何々學校在學中ト記載スルコト
- 四 收入月額種類欄ニハ田畑、貸家、營業、給料等區分ヲ記載シ金額欄ニハ收入月額ヲ記載スルコト
- 五 家族手當受給ノ有無欄ハ扶養家族ニシテ現ニ他ヨリ受ケ居ルモノニ對シテハ「有」ト記載スルコト
- 六 摘要欄ニハ其ノ他參考トナルベキ必要事項ヲ詳細記載スルコト



京都市傭員年功加給給與規程

(大正八年十一月七日
市告示第四百四十七號)

- 第一條 本市傭員ニハ別ニ規程アルモノヲ除クノ外本規程ニ依リ年功加給ヲ給與ス
- 第二條 年功加給ハ三年以上勤續シ成績良好ナル者ニ給與ス
- 第三條 加給額ハ勤續三年ノ者ニ對シテハ年額金拾貳圓以內トシ以後一年ヲ増ス毎ニ金參圓以內ヲ加ヘ最高年額金四拾八圓ニ至リテ止ム
- 第四條 年功加給ノ支給ハ其ノ事由ノ生ジタル月ノ二十一日ヨリ之ヲ行フ但シ其ノ月二十一日以後ニ於テ事由ノ生ジタル者ニ對シテハ翌月二十一日ヨリ之ヲ行フ
- 第五條 年功加給ハ一箇月(前月二十一日ヨリ其ノ月二十一日迄ヲ謂フ以下之ニ做ス)六日以上ノ缺勤者ニハ其ノ半額ヲ支給シ十一日以上ノ缺勤者又ハ解傭ニ依リ勤務日數一箇月ニ滿タザル者ニハ支給セズ
- 第六條 年功加給ヲ給與スベキ傭員ノ種類並本規程施行ニ關スル細則ハ別ニ市長之ヲ定ム

附 則

第七條 本規程ハ大正八年十一月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 本規程施行ノ際現ニ僱員ノ職ニ在ル者ニ對シテハ其ノ採用ノ日ヨリ勤續年數ヲ起算ス但シ京都電氣鐵道株式會社買收ノ際引續キ本市ノ僱員ト爲リタル者ニ對シテハ大正七年七月一日ヨリ之ヲ起算ス

京都市僱員年功加給給與規程施行細則 (大正八年十一月十四日 市達第四百三十七號)

第一條 規程(京都市僱員年功加給給與規程)第一條ニ依リ年功加給ヲ給與スベキ本市僱員ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一種 運轉手、職工、工夫ノ類

第二種 機關手、火夫、汚物掃除夫、消毒夫、看護婦、集金人、看守、守衛、動物畜養人、門衛、看籠人、倉庫、定夫、檢札員、電話交換手ノ類

第三種 使丁、園丁、洗濯人、掃除人、雜仕婦、雜役夫ノ類

第二條 年功加給額ハ左ノ區分ニ依ル

一 第一種ニ屬スル者ノ加給額ハ勤續三年ノ者ニ對シテハ年額金拾貳圓トシ以後一年ヲ増ス毎ニ金參圓ヲ加ヘ年額金四拾八圓ニ至リテ止ム

二 第二種ニ屬スル者ノ加給額ハ勤續三年ノ者ニ對シテハ年額金拾圓トシ以後一年ヲ増ス毎ニ金貳圓ヲ加ヘ年額金參拾四圓ニ至リテ止ム

三 第三種ニ屬スル者ノ加給額ハ勤續三年ノ者ニ對シテハ年額金六圓トシ以後一年ヲ増ス毎ニ金壹圓五拾錢ヲ加ヘ年額金貳拾四圓ニ至リテ止ム

第三條 年功加給ハ兼職ニ對シ別ニ之ヲ支給セス

第四條 年功加給支給定日ニ關シテハ各其ノ給料支給ノ例ニ依ル

附 則

本細則ハ大正八年十一月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

結核性呼吸器病患者給料支給特例ニ關スル條例

(昭和十七年五月十四日 京都市條例第五號)

第一條 結核性呼吸器病ニ罹患セル爲出勤停止ヲ命ジタル本市有給吏員及雇傭員ニ對シテハ他ノ規定ニ拘ラズ本條例ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間中仍從前ノ給料ヲ支給ス但シ出勤停止九十日以後ハ從前ノ給料額ノ三分ノ二ヲ支給ス

第二條 前條ノ雇傭員ノ範圍、給料支給ノ方法其ノ他本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ市長之ヲ定ム

附 則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

結核性呼吸器病罹患職員ノ措置ニ關スル規程

(昭和十七年十月十日
京都市訓令甲第三十號)

第一條 本市職員ニシテ結核性呼吸器病ニ罹患セル者ノ措置ニ付テハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 開放性又ハ開放性ト認メラル結核性呼吸器病ニ罹患セル職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ休養治療(入院若ハ自宅治療)ヲ命ジ其ノ間出勤ヲ停止ス但シ日勤セザル者又ハ他ニ本務ヲ有スル者及勤續六月未滿ノ臨時傭員ハ之ヲ解傭ス

- 一 京都市職員健康檢診規程ニ依ル檢診ノ結果休養治療ノ要アリト認ムル者
- 二 本人ノ申請ニ依リ休養治療ノ要アリト認ムル者

第三條 前條ノ出勤停止ノ期間ハ一年三月トス

結核性呼吸器病ノ爲引續キ缺勤中ノ者ニシテ出勤停止ヲ命ゼラレタル者ノ出勤停止期間ハ前項ノ期間ヨリ其ノ發令前引續キ缺勤シタル日數ヲ控除シタル期間トス

第六條ノ規定ニ依リ出勤ヲ命ゼラレタル後六月以内ニ再ビ出勤停止ヲ命ゼラレタル者ニ付テハ前後ノ出勤停止期間ハ之ヲ通算ス

出勤停止期間ハ發令ノ日(前項ノ場合ニ於テハ前ノ出勤停止發令ノ日)ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第四條 出勤停止ヲ命ゼラレタル者ハ直ニ其ノ治療方法竝ニ治療機關ヲ市長ニ届出ヅベシ其ノ變更ヲ爲シタルトキ亦同ジ

市長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ治療ニ關シ指示スルコトアルベシ

第五條 出勤停止ヲ命ゼラレタル者ハ其ノ期間中毎月京都市保健所ニ於テ檢診ヲ受ケ其ノ結果ヲ市長ニ届出ヅベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ市長ノ許可ヲ得テ他ノ醫療機關ヲ以テ代フルコトヲ得

第六條 出勤停止ヲ命ゼラレタル者勤務ニ支障ナキニ至リタリト認ムルトキハ出勤ヲ命

第七條 出勤停止期間ヲ經過スルモ尙勤務ニ支障アリト認ムルトキハ左ノ各號ニ依ル
 一 有給吏員ニ就テハ京都市吏員休職規程第一條第三號ノ規定ニ依リ休職ヲ命ズ但シ
 休職給ヲ給セズ

二 雇傭員ニ就テハ之ヲ解傭ス

第八條 出勤停止ヲ命ゼラレタル者死亡シタルトキハ遺族ハ直ニ死亡診斷書ヲ添附シ市
 長ニ届出ヅベシ

第九條 第二條、第六條及第七條ノ場合ニ於テハ京都市結核性呼吸器病罹患職員審査委
 員會ノ審議ニ付スベシ前項委員會ニ付テハ市長別ニ之ヲ定ム

第十條 出勤停止ヲ命ゼラレタル者本規程ニ違反シ若ハ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ
 相當ナル處分ヲ爲スコトアルベシ

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本規程施行ノ際現ニ本疾患ニ罹リ缺勤中ノ者ニシテ第二條ノ規定ニ依リ出勤停止ヲ命ゼ

ラレタル者ニ對シテハ第三條第二項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

手當金支給規程定

(明治三十八年三月二十八日
 市達第七七七號)

第一條 市費支辨ニ屬スル手當金ハ本規程ニ依リ支給スルモノトス但シ別段ノ規程アル
 モノハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 手當金ハ左ノ區分ノ定日ニ之ヲ支給ス

一 年額ハ其ノ十二分ノ一月額ハ其ノ月分毎月二十一日但シ年額ノ場合便宜上二ヶ月
 分以上ヲ纏メテ支給スルコトアルベシ

一 日額ハ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日迄ノ分毎月二十六日但シ毎年三月二十一日
 以降ノ分ハ翌月二日同四月一日ヨリ二十日迄ノ分ハ本文ニ依ル

第三條 月額ヲ以テ支給スル現業手當金ハ毎月末日(十二月ニ限り二十八日)ヨリ翌月五
 日迄ノ間ニ之ヲ支給ス

第四條 手當金支給日休暇日ニ當ルトキハ順次繰下ゲトス

第五條 任用其ノ他ニ因リ新ニ手當金ヲ支給スベキ場合ハ就職ノ當日ヨリ他へ轉任又ハ

罷免若ハ死亡等ノ場合ハ各其ノ當日迄日割ヲ以テ支給ス

第六條 公務ニ従事セザル月ハ手當金ヲ支給セズ

第七條 現業手當金ヲ受クル者公務ニ従事セザル場合ハ其ノ日數ニ對スル手當金ハ支給セズ

第八條 現業手當金ヲ受クル者旅費ノ支給ヲ受クル場合ハ其ノ日數ニ對スル手當金ヲ支給セズ

第九條 手當金支給定日前轉職、退職、死亡等ノ場合ニ於テハ第二條又ハ第三條ノ支給定日ニ拘ラズ其ノ際支給ス

第十條 他ニ轉職又ハ減給、退職、死亡等ニ因リ手當金ノ過渡アルトキハ其ノ際之ヲ返納セシム

第十一條 退職者ニ事務引繼又ハ殘務整理ヲ命ジタルトキハ其ノ執務日數ニ應シ尙從前ノ給額ヲ支給ス

第十二條 手當金ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生ズルトキハ之ヲ切捨ツルモノトス

日割計算ノ法ハ其ノ月現日數ニ係ル

定傭夫給料割増並減額ニ關スル件

(大正三年五月二十一日 市達第一四九號)

第一條 本市定傭職工、工夫及之ニ準ズル者ニシテ規定時間外ニ勤務ヲ命ジタル場合又ハ遅刻、早退若ハ中途退出シタルトキハ別ニ規程アルモノノ外本規程ニ依リ給料ノ割増又ハ減額ヲ爲スモノトス

第二條 規定時間外ニ勤務ヲ命ジタルトキハ其ノ勤務一時間ニ付日給額八分ノ一ノ割増ヲナスモノトス但シ毎勤務一時間未滿ハ此ノ限ニ在ラズ

公休日(特ニ休日ヲ指定シタルトキハ其ノ指定ノ日)ニ出勤ヲ命ジタルトキハ前項ノ例ニ依リ割増ヲ爲ス二十四時間以上繼續勤務ヲ命ジタルトキハ前二項ノ外特ニ日給額十分ノ三ヲ加給ス

前三項ノ規定ニ依リ給料ノ割増ヲ受クベキ勤務ニ對シ特ニ休暇ヲ與ヘタルトキハ割増

ヲ爲サザルモノトス

第三條 遅刻、早退若ハ中途退出等ニヨリ規定時間ニ對シ一時間以上ノ勤務ヲ缺キタルトキハ一時間毎ニ日給額八分ノ一ヲ減額ス遅刻十五分以上ニ及ブトキハ一時間未滿ノ場合ト雖モ之ヲ一時間ト見做ス

第四條 第二條ノ規定ニ依リ給料ノ割増ヲ受ケタル者ニハ賄料ヲ支給セズ但シ天災事變等ニ際シ非常勤務ヲ命ジタルトキニ限り現品ヲ支給スルコトアルベシ

第五條 本規程ハ臨時ニ使役スル直備職工、工夫及之ニ準ズベキ者ニ準用ス

京都市賄料支給規程

(昭和十九年一月二十日
京都市訓令甲第一號)

第一條 本市吏員、學校幼稚園職員、雇員及傭員(臨時傭人ヲ除ク)ニシテ所屬長ノ命ニ依リ休日勤務、當直又ハ時間外勤務シタルトキハ別ニ定ムルモノノ外本規程ニ依リ賄料ヲ支給ス

第二條 本規程ニ於テ學校幼稚園職員トハ官吏ノ待遇ヲ受クル者竝ニ教員、學校養護婦國民學校助教、指導員、講師、代用保姆及囑託教員ヲ謂フ

第三條 賄料ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス

區分	當直賄料	休日勤務	時間外勤務
一回數又ハ時間	一回	五時間以上	執務時間午後八時ニ至ルトキ 執務時間午後十二時ニ至ルトキ 執務時間後徹夜ニ至ルトキ
吏員、雇員、學校幼稚園職員	一圓	二〇分	三〇分
傭員	七十錢	二〇分	三〇分

右區分中一度分トハ吏員學校幼稚園職員雇員ノ場合ニ在リテハ七十錢、傭員ニ在リテハ六十錢トス

第四條 當直賄料ハ日直ト宿直トニ區分シ各別ニ之ヲ支給ス但シ當直ヲ常務トスル者ニハ當直賄料ハ之ヲ支給セズ

第五條 現品ヲ支給シタルトキハ賄料ヲ支給セズ

第六條 囑託員ニシテ日勤スル者ニハ吏員又ハ雇員ニ準ジ賄料ヲ支給ス

本規程ハ昭和十八年十月二十日ヨリ之ヲ適用ス

賄料支給ニ關スル件

發人乙第五九二號
昭和十九年一月二十一日

本年一月二十日附京都市訓令甲第一號ヲ以テ本市賄料支給規程改正公布相成候處之ガ取扱ニ關シ左記事項御留意ノ上支給ノ適正ヲ期セラレ度依命此段及通牒候也

記

- 一、賄料ハ其ノ月分ヲ翌月十日ニ支給ス但シ休職、退職又ハ死亡シタルトキハ其ノ際支給スルコト
- 一、賄料支給ノ際ハ當該豫算主管課ニ當直簿及休日勤務簿、時間外勤務簿ヲ提示スルコト
- 一、命ニ依リ休日勤務又ハ時間外勤務シタル場合ニ於テ退應ニ際シ所廳長又ハ主務者不在ノ場合ハ其ノ都度所定ノ勤務簿ニ當直員（昭和十八年十月十九日附市役所、區役所其ノ他各廳執務ニ關スル件通牒ニ基ク當直員）ノ認印ヲ受クルコト

- 一、休日勤務又ハ時間外勤務ヲ必要トスルトキハ豫メ所屬長ノ承認ヲ受クコト
- 一、各課ニ於テ左ノ様式ニ依ル休日勤務簿、時間外勤務簿ヲ備フルコト但シ當直簿ハ從前ノモノヲ使用ス

（様式）

休日勤務簿

課

名

所屬長 主事 主任 當直員	執務時間	休日勤務、 時間外勤務、 區別	用務	職名	氏名	印	備考
	時間（自午 以上至午 時時						

夜勤辨當料支給ニ關スル件

（昭和十七年三月十一日）
發秘乙第一七〇號

本市職員ニシテ夜間勤務ニ從事スル場合現品（辨當）ヲ以テ支給相成居リ候向ハ現下物資不足ノ爲現品ニ依ル支給困難ナル實情ナルニ鑑ミ之等受給者ニ對シ現品ノ調達不可能ナルトキハ別ニ規定アルモノヲ除キ當分本市賄料支給規程ニ準據シ從來右現品ヲ支辨セ

シ豫算中ヨリ夜勤辨當料トシテ支給スルコトニ定メラレ候條御承知相成度
尙之ガ取扱ニ關シテハ左記様式ニ依ル夜勤簿ヲ備ヘ支給ノ適正ヲ期セラレ度依命此段及
通牒候也

夜勤簿記

所屬長名	月	日	夜勤時間	用	務	職	名	氏	名

被服代料支給ニ關スル件

(昭和十七年十月三日
發秘乙第四七二號)

本市傭人ニ貸與スベキ被服ハ衣料切符制ノ實施ニ因リ被貸與者ノ切符點數ヲ徵收スル
ニアラザレバ調達不可能ト相成亦一面資材拂底ノ爲制規ノ現品入手困難ナル實情ニ有之
候ニ付當分ノ間左記ニ依リ現品貸與ニ代ヘ代料ヲ以テ支給スルコトニ決定相成候處右ハ

已ムヲ得ザル當分ノ措置ニ有之候ニ就テハ之ガ爲被服貸與ノ趣旨ニ鑑ミ甚シク服裝ヲ亂
シ其ノ服務上不都合ヲ生ズルコトナキ様取扱上遺憾ナキヲ期セラレ度依命此段及通牒候
也

追テ運輸現業員、二條城職員其他電氣局一部傭人等特別ノ事由ニヨリ已ムヲ得ザルモ
ノハ本件ニ含マザルモノト御了承相成度候

記

- 一、被服代料ハ豫算ノ基礎タル各種單價合算額ヲ二等分シ之ヲ九月及三月ノ二期ニ支給スルコト
- 一、新ニ就職シタル者ハ其翌月ヨリ起算シ勤務月數ニ應ジ月割ヲ以テ支給スルコト
- 一、轉、退職又ハ死亡ノ場合ハ其月迄在職月數ニ應ジ月割ヲ以テ其ノ際支給スルコト
- 一、代料ノ支給ヲ受ケタル者ニシテ現品ノ調達ヲ希望スルモノニ付テハ主管課ニ於テ斡旋スルコト
- 一、洋服ヲ調製セントスルモノアルトキハ可成國民服(乙號)ヲ可トス(給仕用ニ在リテハ國防色學生服ヲ可トス)

京都市吏員除服出仕規程

(大正三年十月十五日
市達第二六九號)

第一條 市吏員左ノ親族ノ喪ニ丁リ下ニ定ムル日限ヲ經過シタルトキハ命ヲ俟タズ出仕スベシ

- 一 父母、配偶者 廿日
- 一 祖父母、曾祖父母、兄弟、姉妹、子、伯叔父母 十日間
- 一 高祖父母、孫、配偶者ノ父母 三日間
- 一 曾孫、玄孫、甥、姪、從兄弟姉妹 二日間

但シ七歳未満ノ者ナルトキハ子ニ在リテハ五日間其ノ他ノ者ニアリテハ一日間トス

第二條 前條ノ日限内ト雖モ事務ノ都合ニ依リ出仕ヲ命ズルコトアルベシ

第三條 本規程ハ法令其ノ他特別ノ規程アルモノニ對シテハ之ヲ適用セズ

雇員又ハ之ニ準スル者ノ忌引ニ關スル件

(大正十一年四月一日
市達第七八號)

本市雇員(臨時雇ヲ除ク)又ハ之ニ準スヘキ者ノ忌引ニ關シテハ京都市吏員除服出仕規程ヲ準用ス

備員忌引ニ關スル件

(大正十一年四月十四日
市達第七九號)

本市使丁、職工、工夫、定夫其ノ他之ニ準ズベキ者其ノ親族ノ廳中一般喪ニ遭遇シタルトキハ左ノ區別ニ依リ忌引セシム但シ業務ノ都合ニヨリ出仕ヲ命ズルコトアルベシ

- 一 父母、配偶者 七日間
 - 一 子 五日間
 - 一 祖父母、兄弟、姉妹 三日間
 - 一 孫及配偶者ノ父母 二日間
 - 一 同居ノ曾祖父母、伯叔父母、甥姪、曾孫 一日間
- 七歳未満ノ者ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ子ニアリテハ二日間其ノ他ノ者ニアリテハ一日間トス

備員祭日休暇ニ關スル件

(昭和五年七月三十一日
市訓令甲第一〇號)

備員其ノ父母ノ祭日ニハ當日休暇ヲ與フ

祭日休暇ヲ受ケントスル者ハ其ノ續柄及氏名ヲ記載シタル書面ヲ以テ其ノ旨届出ズベシ
傭員ハ豫メ主務課長ニ父母ノ祭日ヲ届出置クベシ

吏員職員休暇ニ關スル件

(大正十三年七月二日 市達第百二號)

本市ノ吏員職員ニ對シ七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ事務ニ差支ヘザル限リ二十日以内ノ休暇ヲ與フ但シ當該期間内ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得ザル場合ニハ他ノ期間ニ於テ之ヲ與フルコトアルベシ
休暇ヲ得ムトスル者ハ市役所吏員、職員、區長、廨長ニ在リテハ市長、其ノ他ノ者ニ在リテハ區長又ハ廨長ノ承認ヲ受クベシ

吏員職員等ノ休暇ニ關シ依命通牒

(大正十三年八月三十日 秘第百一六號)

吏員職員等ノ休暇ニ關シ別紙ノ通定メラレ候條右依命及通牒候也

(別紙)

- 一 毎年七月二十一日ヨリ翌年七月二十日迄ヲ休暇ニ關スル年度トス
 - 一 七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得ザリシ者ニシテ平素勤務成績良好ナル者ニ對シテハ翌年七月二十日迄ノ間ニ於テ殘餘日數以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得
 - 一 新任後六箇月ヲ經過セザル者ニハ休暇ヲ與ヘズ
 - 一 六箇月ヲ經過シタルトキハ其ノ以降ノ年度内月數ニ應ジ一ヶ月二日ノ割合ヲ以テ休暇ヲ與フコトヲ得
 - 一 休暇ヲ受ケムトスル者ハ豫メ主務局、部、課長ヲ經テ人事課長ニ申出承認ノ手續ヲナスコト
 - 一 傭人ニ對シテハ前各項ニ準ジ休暇ヲ與フルコトヲ得
- 其ノ日數ハ總テ吏員職員ノ休暇日數ノ半數トス

掃除監視吏員休暇ニ關スル件

(昭和十六年九月二十五日 市訓令甲第三四號)

本市掃除監視吏員ニ對シ毎月二日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得但シ事務所詰掃除監視

吏員ハ本廳一般吏員ノ例ニ依ル
前項ノ休暇ヲ受ムトスル者ハ豫メ清掃課長ノ承認ヲ受クベシ
掃除巡視吏員休暇規程ハ之ヲ廢止ス

戰時、事變召集解除者休暇ニ關スル件 (昭和十四年八月十七日市訓令甲第二三號)

第一條 戰時若ハ事變ニ際シ兵役法第五十四條ニ依リ召集セラレタル本市吏員職員及傭員ニシテ引續キ本市ニ在職セル者召集解除セラレタル場合ニ於テハ他ノ規定ニ拘ラズ本人ノ願出ニヨリ召集解除ノ日ノ翌日ヨリ七日以内ニ於テ休暇ヲ與フルモノトス但シ應召中傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者召集解除セラレタル後仍健康恢復不充分ノ爲メ療養ヲ必要トスル場合ニ於テハ本人ノ願出ニ依リ軍病院ノ證明等ニ基キ市長ニ於テ事情已ムヲ得ザルモノト認ムル場合ニ限リ召集解除ノ日ノ翌日ヨリ九十日以内ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得

第二條 前條ノ規定ハ徵發令、國民徵用令其ノ他之ニ準ズベキ法令ニ依リ徵發又ハ徵用セラレタル者竝ニ日本赤十字社救護員トシテ召集セラレタル者ニ之ヲ準用ス

特別休暇附與ニ關スル件

昭和十五年十月三十一日
發秘乙第一一四九號

今般本市吏員以下ニシテ軍事ニ關聯シ必要已ムヲ得ザル場合ハ左記ニ基キ本人ノ願出ニ依リ所要期間特別休暇ヲ附與シ以テ勤務上及給與上ノ顧慮ナク、軍事能力ノ増進竝ニ英靈尊崇上遺憾ナカラシムル様定ラメレ候條貴部内一般ニ周知シメラレセ度此段依命及通牒候也

記

一、本市吏員、職員、傭員ニシテ左ノ場合ニ該當シ休務ヲ要スルトキハ其ノ事由、期間其ノ他必要事項ヲ具シ所屬長ヲ經テ市長ニ特別休暇ヲ願出ヅベシ

(イ) 在郷軍人ニシテ帝國在郷軍人會ニ於テ實施スル假設ノ各種召集點呼又ハ教育訓練等ニ參加(參會、出席)ヲ命ゼラレ又ハ囑託セラレタルトキ

(ロ) 戰死者、戰傷死者、戰病歿者ノ遺族ニシテ陸軍又ハ海軍ノ招請ニ依リ靖國神社ニ參拜ヲ爲ストキ又ハ遺骨出迎、軍若ハ地方自治團體等ニ於テ實施スル慰靈祭、告別式葬儀等ニ參列ヲ要スルトキ

二、所屬長本願書ヲ受理シタルトキハ代決規程ニ依リ代決シ得ベキ場合ヲ除キ意見ヲ附シ速カニ市長ニ進達スベシ

京都市旅費規則

(昭和十七年五月二十日)
京都市條例第六號

五六

第一條 公務ノ爲旅行スルトキハ本規則ニ依リ旅費ヲ支給ス但シ外國ニ旅行スル場合ノ旅費額及支給方法ハ外國旅費規則及南洋群島關東州滿洲旅費規則並ニ其ノ附屬法規ヲ準用シ支給等給ハ別ニ市長之ヲ定ム

第二條 旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、赴任手當、移轉料及家族移轉料ノ八種トシ鐵道又ハ軌道旅行ニハ鐵道賃、水路旅行ニハ船賃、陸路旅行ニハ車馬賃ヲ支給ス

鐵道、軌道又ハ水路ニ依ラザル旅行ハ之ヲ陸路旅行トス

第三條 鐵道賃ハ左ノ區別ニ從ヒ旅客運賃及急行料金(通行稅ヲ含ム)ノ實費ヲ支給ス

一 別表一等、二等及三等ノ者ニ在リテハ一等ノ旅客運賃但シ一等車ノ連結ナキ線路ニ在リテハ二等ノ旅客運賃

二 別表四等、五等及六等級ノ者ニ在リテハ二等ノ旅客運賃

三 鐵道賃ニシテ等級ノ區別ナキモノハ其ノ旅客運賃

四 三百斤以上ノ旅行ニ在リテハ普通急行料金但シ急行料金但シ急行料金ヲ要セザル線路ニ依ルトキハ此ノ限ニ在ラズ

五 特別ノ必要ニ依リ普通急行列車又ハ特別急行列車ニ乗車シタル場合ニ於テハ前號ノ規定ニ拘ラズ其ノ乗車ニ要スル急行料金

第四條 船賃ハ旅客運賃(通行稅ヲ含ム)ニ依リ前條鐵道賃ノ例ニ準ジ之ヲ支給ス

第五條 車馬賃、日當、宿泊料及移轉料ハ別表ニ定ムル所ニ從ヒ之ヲ支給ス

第六條 鐵道賃、船賃及車馬賃ハ順路ニ依リ之ヲ計算ス但シ公務ノ都合又ハ不可抗力ニ因リ順路ニ依リ難キ場合ニ於テハ其ノ現ニ經過シタル通路ニ依ル

第七條 車馬賃ハ其ノ路程ヲ合算シ之ヲ支給ス但シ一籽未滿ノ端數ハ切捨トス

第八條 特別ノ事情ニ依リ定額ノ車馬賃ヲ以テ其ノ實費ヲ支辨シ難キ場合ニ於テハ實費ヲ支給スルコトヲ得

第九條 日當ハ日數ニ應ジ宿泊料ハ夜數ニ應ジ之ヲ支給ス但シ水路旅行ニシテ其ノ旅客運賃ニ寢臺料ヲ含ム場合ハ宿泊料ハ之ヲ支給セズ

第十條 旅行日數ハ公務ノ爲滞在シタル日數及途中已ムヲ得ザル事由ノ爲要シタル日數

五七

ヲ除クノ外鐵道及軌道旅行ハ三百三十糎、水路旅行ハ百六十糎、陸路旅行ハ四十八糎ニ付一日ノ割合トス但シ一日未滿ノ端數ハ之ヲ一日トス

第十一條 市ニ於テ船、車、馬等ヲ供給シタルトキハ其ノ旅行ニ對スル鐵道賃、船賃、車馬賃ハ之ヲ支給セズ

第十二條 陸路二十四糎未滿(市ニ於テ車ヲ供給シタルトキハ三十糎未滿)、鐵道、軌道七十八糎未滿、水路五十六糎未滿ノ旅行ニ在リテハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外其ノ支給スベキ日當ハ定額ノ二分ノ一トス

一 旅行ニシテ陸路、鐵道、軌道又ハ水路ニ亘ルトキハ鐵道、軌道ハ三、三糎水路ハ二、五糎ヲ以テ陸路一糎ト看做シ前項ノ規定ヲ準用ス

第十三條 新ニ任用スル爲召喚シタル者ニハ新任ノ職ニ相當スル鐵道賃、船賃ノ車馬賃、日當及宿泊料ヲ支給ス

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ卦任手當、移轉料及家族移轉料ヲ支給スルコトヲ得

卦任手當、移轉料及家族移轉料ノ額竝ニ其ノ支給方法ニ付テハ本規則ニ定メタルモノ

ヲ除クノ外内國旅費規則並ニ其ノ附屬法規ヲ準用ス

第十四條 年度又ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分計算スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ區分判明ナラザルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區分シ計算ス

第十五條 旅行中退職又ハ休職ト爲リタル者ニハ前職ニ相當スル本市迄ノ旅費ヲ支給ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リ解職セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合ニ於テハ第十條ニ定メタル旅程ノ割合ヲ以テ計算シタル日數ニ依リ旅費ヲ支給ス

旅行中死亡シタル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ準ジ旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第十六條 事務引繼、殘務整理等ノ爲休職又ハ退職者ニ旅行ヲ命ジタルトキハ前職相當ノ旅費ヲ支給ス

第十七條 囑託員ニシテ公務ノ爲旅行シタルトキハ本市名譽職員ニ在リテハ別表一等級ノ者ノ受クベキ旅費額、官公吏ニ在リテハ其ノ官公職ニ依リ受クベキ旅費額ヲ支給シ其ノ他ノ者ニ在リテハ本規則ノ範圍内ニ於テ市長之ヲ定ム

第十八條 雇傭員ニ支給スベキ旅費額ハ雇員及月俸ヲ受クル傭員ニ在リテハ別表六等級ノ者ノ受クベキ旅費額ノ八割相當額、日給ヲ受クル傭員ニ在リテハ別表六等級ノ者ノ受クベキ旅費額ノ七割相當額トス

第十九條 市長ハ常時市内又ハ隣接市町村ニ出張ヲ要スル者ニ對シ定額ノ範圍内ニ於テ特ニ其ノ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

第二十條 旅行先ニ於テ特ニ必要アル場合ニ限り車馬賃ノ實費ヲ支給スルコトヲ得市内出張ノ場合亦同ジ

第二十一條 朝鮮、樺太又ハ臺灣ニ旅行スル場合ニ於テハ市長ハ定額ノ二割以内ニ於テ日當、宿泊料ヲ増額スルコトヲ得

第二十二條 市長ハ時宜ニ依リ旅費ノ定額ヲ減ジ又ハ旅費ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第二十三條 本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ市長之ヲ定ム

附 則

第二十四條 本條例ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第二十五條 本條例公布ノ際現ニ別表四等級ニ該當スル者ハ其ノ四等級ニ該當スル間鐵道賃及船賃ノ支給ニ付テハ之ヲ別表三等級ニ該當スル者ト看做ス

第二十六條 本條例公布ノ際現ニ八十圓以上百圓未満ノ月俸又ハ月手當ヲ受クル吏員、職員ハ月俸又ハ月手當百圓ニ達スル迄別表五等級ニ該當スル者ト看做ス

(別 表)

旅 費 額

等級	職 名	車馬賃 一料ニ付	一日ニ當 一日ニ付	宿泊料 一夜ニ付	移轉料
一、等	市長、助役、考査役、市收入役	參拾錢	拾圓	拾五圓	參百圓以内
二、等	副收入役、局長、理事、四千圓以上ノ年俸又ハ年手當ヲ受クル吏員、職員	貳拾七錢	八圓	拾參圓	貳百貳拾圓以内
三、等	年俸四千圓未満ノ區長、本廳課長、解長、貳千五百圓以上ノ年俸又ハ年手當ヲ受クル吏員、職員	貳拾五錢	七圓	拾壹圓	百五拾圓以内
四、等	前號ニ該當セザル年俸又ハ年手當ヲ受クル吏員、職員	貳拾參錢	六圓	九圓	百五拾圓以内
五、等	百圓以上ノ月俸又ハ月手當ヲ受クル吏員、職員	貳拾錢	五圓	八圓	百圓以内

六

等

百圓未満ノ月俸又ハ月手當ヲ受クル吏員、職員

貳拾錢

四

圓七

圓

百圓以内

六二

京都市旅費規則施行細則

(昭和十七年五月二十八日
京都市訓令甲第十七號)

第一條 本細則ニ於テ規則ト稱スルハ京都市旅費規則ヲ謂フ

第二條 鐵道賃、船賃及車馬賃ハ特別ノ場合ヲ除ク外最短距離ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 用務地ニ鐵道、軌道ノ兩線アル場合ハ鐵道ニ依リ之ヲ計算ス

第四條 用務地二以上ニ亘ル爲途中下車ヲ要スル場合ニ於ケル鐵道賃ハ全路程ニ付之ヲ計算ス但シ旅行ノ性質ニ依リ鐵道、軌道旅客運賃又ハ急行料金ヲ用務地毎ニ區分計算スルノ必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 急行列車ガ用務地驛ニ停車セザル場合ニ於テハ用務地最近ノ急行停車驛迄ノ急行料金ヲ支給シ當該用務地ヨリ歸廳シ又ハ更ニ他ノ用務地ニ旅行スル場合ニ於テハ當該用務地最近ノ急行停車驛ヨリ之ヲ計算ス

第六條 旅行中身分ノ變更ニ依リ旅費額ニ異動ヲ生ジタルトキハ發令ノ翌日ヨリ新ナル

身分ニ相當スル定額ヲ支給ス但シ鐵道賃、船賃及車馬賃ニ付テハ最近ノ停車驛、寄港地又ハ豫定到着地ヲ以テ其ノ額ヲ區分シテ之ヲ計算ス

第七條 旅行ノ途中ニ於テ用務ノ都合ニ依リ歸廳ヲ命ゼラレタル場合ハ最初ノ旅行目的地迄ノ鐵道賃、船賃ヲ支給ス但シ未旅行區間ニ對シ鐵道賃又ハ船賃ノ拂戻ヲ受ケタル場合ハ其ノ相當額ヲ控除ス

第八條 旅行中病氣其ノ他ノ事故ニ依リ用務ニ從事セザルトキハ日當ヲ支給セズ

第九條 月額又ハ日額認定旅費ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ支給ス但シ其ノ給與額ハ別ニ市長之ヲ定ム

- 一 月額認定旅費ハ一箇月ノ出張日數十五日ニ滿タザルトキハ其ノ日數ニ應ジ、新ニ支給スル場合ハ發令ノ當日ヨリ、退職、轉任又ハ支給廢止ノ場合ハ發令ノ當日迄死亡ノ場合ハ其ノ當日迄日割ヲ以テ支給ス日割計算ノ方法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル
- 一 日額認定旅費ハ出張日數ニ應ジ之ヲ支給ス
- 一 普通旅費ノ支給ヲ受ケタル場合ハ其ノ日數ニ對スル月額認定旅費ハ支給セズ
- 一 市ニ於テ船、車、馬等ヲ供給シタルトキ又ハ車馬賃ノ實費ヲ支給シタルトキハ認

定旅費ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトアルベシ

第十條 各種講習受講ノ爲旅行ヲ命ゼラレタル場合ニ於ケル旅費ハ左ノ割合ヲ以テ之ヲ支給ス但シ講習期間七日以上ニ亘ルトキ又ハ講習司會者ノ斡旋等ニ依リ一定ノ宿泊所ニ宿泊ノ場合ハ事情ニ依リ日當、宿泊料ヲ更ニ減額スルコトアルベシ

一 年俸又ハ年手當ヲ受クル吏員、職員

鐵道賃 二等實費但シ等級ノ區別ナキモノハ其ノ旅客運賃

日當 一日ニ付 三圓

宿泊料 一夜ニ付 七圓

一 月俸又ハ月手當ヲ受クル吏員、職員

鐵道賃 前號鐵道賃ノ八割相當額但シ等級ノ區別ナキモノハ其ノ旅客運賃

日當 一日ニ付 二圓五十錢

宿泊料 一夜ニ付 六圓

一 雇員又ハ月俸ヲ受クル傭員

鐵道賃 三等實費

日當 一日ニ付 二圓
宿泊料 一夜ニ付 五圓
一 日給ヲ受クル傭員ニ在リテハ前號ノ範圍内ニ於テ別ニ之ヲ定ム
第十一條 各種講習用務ノ爲旅行ヲ命ゼラレタル場合ニ於テ受講者ト起居ヲ共ニスルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス
第十二條 外國ニ旅行スル場合ニ於ケル支給等級ハ左ノ區別ニ依ル

一 外國旅費規則ヲ準用スル場合

條例別表一等級ノ者 勅任官相當額

同 二等級及三等級ノ者 奏任官五等以上相當額

同 四等級ノ者 奏任官六等以下相當額

同 五等級及六等級ノ者 判任官相當額

一 南洋群島關東州滿洲旅費規則ヲ準用スル場合

條例別表一等級ノ者 勅任官相當額

同 二等級及三等級ノ者 奏任官五等以上相當額

同 四等級ノ者 奏任官六等以下相當額

同 五等級ノ者 判任官五級俸以上相當額

同 六等級ノ者

判任官六級俸以下相當額

第十三條 朝鮮、樺太又ハ臺灣ニ旅行スル場合ニ於テハ用務地ニ滞在期間中日當及宿泊料ヲ定額ノ一割増額ス

第十四條 規則第三條第五號ノ規定ニ依リ特別急行列車又ハ普通急行列車ニ乗車スベキトキハ出張命令簿ニ其ノ旨記載スベシ

第十五條 旅費ノ概算拂ヲ受ケ旅行シタル者ハ歸應後五日以内ニ之ガ精算ヲ爲スベシ
第十六條 旅費ノ請求並ニ精算ハ別表様式ニ依ルモノトス

附 則

本細則ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

大正九年市達第七十九號「認定旅費支給規程」明治三十二年市達第七十四號乘車出張ニ關スル件」明治三十一年市達第八十號「吏員出張命令並旅費請求手續」明治三十八年市達第八十八號「外勤手当ヲ受クル者ノ旅費支給方法其ノ他ニ關スル手續」ハ之廢止ス但シ本細則公布ノ日迄ニ之等ノ規定ニ基キ爲シタル手續ハ本細則ニ基キ爲シタルモノト看做ス

(概算) 旅費 (請求兼領收) 書 (精算) 書

一金 右ハ

昭和 年 月 日 出發 月 日 歸着 日間出張旅費

内 譯

長	主任	係員	時 常 別	款	項	目種	記附
金	圓	錢	鐵道賃	至自	至自	至自	至自
金	圓	錢	船賃	至自	至自	至自	至自
金	圓	錢	車馬賃	至自	至自	至自	至自
金	圓	錢	日當	至自	至自	至自	至自
金	圓	錢	宿泊料	至自	至自	至自	至自
計金	圓	錢					

右(請求)候也
(精算)
昭和 年 月 日

局(長) 課(長又ハ勤務)
部(長) 區廨(長又ハ勤務)
(俸 圓 等級 附則第 條該當)
(職名) (氏名)

京都市長 殿

前記金額正ニ領收候也

昭和 年 月 日

右

(收入役)
京都市(副收入役)
(區收入役) 殿

日額認定旅費支給ノ件

(昭和十三年四月三十日)
發職乙第一九三號市助役通牒

- (一) 旅費規則第十九條ニ依ル市内出張日額認定旅費ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ支給ス
 - (二) 市自動車提供ノ場合ハ日額認定旅費ヲ支給セス
 - (三) 月額認定旅費ヲ受クル者左表甲區域(1)項(三〇錢均一區域)へ出張ノ場合ハ日額認定旅費ヲ支給セス
ソレ以外ノ區域へ出張ノ場合ハ其ノ出張日數ニ應シ月額認定額ノ日額ニ相當スル金額ヲ控除ス
 - (四) 一日二回以上出張ノ場合ハ其ノ旅費額最モ高キモノ一回分ヲ支給ス一回ノ出張ニシテ支給區域二以上ニ亘ル場合亦同シ
 - (五) 出張回數多キニ及フ場合ト雖モ一ヶ月ノ支給額ハ左記回數相當額ヲ超ユルコトヲ得ス
但シ第4項ニヨル支給額ニシテ特定區域ニ於ケル限度額ヨリ超過スル場合ハ該限度額ヲ以テ打切リトス
- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 甲、乙區域ノミニ出張ノ場合 出張旅費額高キモノ 十回分 2 特定區域(1)項ノミニ出張ノ場合 同 七回分 | |
|---|--|

- 3 同 (2)項ノミニ出張ノ場合 同 五回分
- 4 各區、項ニ亘リ出張ノ場合 同 八回分
- (六) 市長、助役、考査役、收入役ニ對シテハ年俸又ハ年手當ヲ受クル吏員囑託員ノ受クヘキ旅費ノ五割増ヲ以テ支給額トス
- (七) 本規程ハ昭和十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス
- (八) 現行規定ニシテ本規定ニ抵觸スルモノハ總テ之ヲ廢止ス

七〇

日額認定旅費支給表		支給額	
區域	學區名	年俸又ハ年手當ヲ受クル吏員囑託員	月俸又ハ月手當ヲ受クル吏員囑託員
甲	(1) 上賀茂、大宮、鷹ヶ峰、吉祥院、上鳥羽、花園、太秦、西京極、桂、川岡、伏見、竹田、深草、桃山、修學院、松ヶ崎、山階、嵯峨、梅津、松尾、下鳥羽、橫大路、向島、上賀茂ノ内(ヶシ山)鷹ヶ峰ノ内(庭町、大谷町、堀越町)北白川ノ内(重石)吉祥院ノ内(島笠井町)上鳥羽ノ内(塔ノ森町)花園ノ内(越町、宇多野谷)深草ノ内(稻荷山、極樂寺山町)向ヶ原町、大龜谷岩山町	三〇	均一
乙	(2) 勤修、高雄、納所、上賀茂ノ内(二軒茶屋)大宮ノ内(上庄田町)山階ノ内(北花山町)安米稻荷山、小山(大塚町)川岡ノ内(極原町)牛ノ瀬町向島ノ内(葭島渡場島町)又兵衛)醍醐	五〇	均一

特 定 區 域	乙 區 域	特 定 區 域
(2)	(1)	(3)
嵯峨ノ内(越畑町)	花園ノ内(鳴瀧澤)松尾ノ内(山田鈴ヶ尾)	勤修、高雄、納所、上賀茂ノ内(二軒茶屋)大宮ノ内(上庄田町)山階ノ内(北花山町)安米稻荷山、小山(大塚町)川岡ノ内(極原町)牛ノ瀬町向島ノ内(葭島渡場島町)又兵衛)醍醐
嵯峨ノ内(嵯原町)	上賀茂ノ内(十三石山)大宮ノ内(水室町)修學院ノ内(井手ヶ谷)丸ヶ子青ヶ谷、尺羅ヶ谷四明ヶ嶽、牛ノ瀬、延曆寺山)嵯峨ノ内(愛宕町)山階ノ内(音羽南谷)松尾ノ内(山田島子尾)高雄ノ内(増井東平、雲心寺)西平、馬谷西平)	鷹ヶ峰ノ内(前坂)北白川ノ内(中山)修學院ノ内(羽谷)勤修ノ内(西ノ山)岩ヶ谷、勤修寺丸山町、勤修寺柴山、勤修寺北大日)高雄ノ内(水谷)寺尾、眞野ヶ百合風吹、嵯峨岩谷、龜石町)嵯峨ノ内(清瀧町)鳥居本町、北嵯峨町、小倉山小倉町)松尾ノ内(嵐山)元録山町、嵐山北松尾山、松室此松尾山、松尾南松尾山)醍醐ノ内(小栗栖町)
醍醐ノ内(陀羅谷)	一・五〇	一・三〇
嵯峨ノ内(水尾町)	二・五〇	一・〇〇
嵯峨ノ内(嵯原町)	二・〇〇	一・五〇
嵯峨ノ内(越畑町)	四・五〇	一・二〇
嵯峨ノ内(嵯原町)	五・〇〇	一・〇〇
嵯峨ノ内(越畑町)	五・五〇	一・八〇
		七〇 錢均一

七一

市外出張ニ關スル件

(發秘乙第二七六號)
昭和十七年五月二十八日

七二

近時市外出張ノ度數多キ傾向ニアルハ事務ノ繁劇ニ伴フ止ムヲ不得現象ト被認候處用務ノ性質ニ依リ相當制限ノ餘地アルモノ有之ヤニ見受ケラレ且又今回旅費規則ノ改正ニ依リ豫算上ニ於テモ相當膨張スルコト、相成候ニ付テハ爾今之等出張ニ對シテハ左記方針ニ依リ取扱フコト、相成候條之ガ執行ニ當リ遺憾ナキヲ期セラレ度依命此段及通牒候也

追テ出張復命書提出方ニ付テハ屢々及通牒置候次第ナルモ未ダ不徹底ナル向有之候條勵行方特ニ御留意相成度申添候

記

- 一、各種會合又ハ同一用務ノ爲出張ノ場合ハ關係主務者一名タルコト
- 一、視察又ハ調査ノ爲出張ノ場合ハ必要止ムヲ不得場合ノ外之ヲ認メザルコト
- 一、止ムヲ不得事由アル場合ノ外出出張豫定期間ノ延長ハ認メザルコト

京都市職員共濟組合條例

第一條 本市ハ市職員ノ互助共濟竝ニ福利増進ヲ圖ル爲市職員（電氣局所屬雇傭員ヲ除ク）ヲシテ京都市職員共濟組合ヲ組織セシム

前項職員ノ範圍竝ニ組合ノ組織及事業其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ市長之ヲ定ム

第二條 市長ハ市職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第三條 市ハ毎年度豫算ノ定ムル範圍内ニ於テ組合ニ補給金ヲ交付ス

第四條 本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ市長之ヲ定ム

附 則 (昭和十六年五月一日京都市條例第十七號)

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

京都市職員共濟組合規則

第一章 總 則

- 第一條 本組合ハ京都市職員共濟組合ト稱シ京都市職員共濟組合條例ニ基キ之ヲ組織ス
- 第二條 本組合ノ事業左ノ如シ

七三

- 一 共濟給付
- 二 其ノ他ノ福利事業

第三條 本組合ノ事務所ハ之ヲ京都市役所内ニ置ク

第二章 組合員

第四條 組合員ヲ分チテ普通組合員及特別組合員トス

普通組合員トハ給料月額百五十圓未滿ノ本市職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ但シ本市電氣局共濟組合員、健康保險被保險者並ニ勤續六月未滿ノ臨時雇傭員及日勤セズ又ハ本務トセザル者ヲ除ク

- 一 吏員、雇員、囑託員並ニ傭員
 - 二 本組合ノ職員
 - 三 市立各學校及幼稚園ノ職員但シ教職員共濟組合員、内務職員共濟組合員ヲ除ク
 - 四 其ノ他ノ者ニシテ市長ノ承認ヲ受ケタル者
- 特別組合員トハ前項各號ノ一ニ該當スル給料月額百五十圓以上ノ本市職員ニシテ組合加入ノ意思ヲ表示シタル者又ハ普通組合員タリシ者ヲ謂フ但シ本市電氣局共濟組



合員及日勤セズ又ハ本務トセザル者ヲ除ク給料月額トハ年俸ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ十二分ノ一、日給ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ三十日分ヲ謂フ

第五條 組合員左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ルトキハ組合ヲ脫退ス

- 一 死亡シタルトキ
- 二 退職シタルトキ
- 三 休職ヲ命ゼラレタルトキ
- 四 前條第二項但書、同條同項第三號但書又ハ同條第三項但書ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキ

但シ兵役法ニ依ル徵集ノ爲休職ヲ命ゼラレタル者ヲ除ク

第六條 組合員又ハ組合員タリシ者ハ本規則ニ定ムルモノノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ズ

第三章 組合費

第七條 組合員ハ組合費トシテ給料月額ノ千分ノ十五ニ相當スル額ヲ毎月組合ニ納付スルモノトス但シ給料ノ支給ヲ受ケサル月ノ組合費ハ給料ヲ次回受領ノ際之ヨリ納付ス

ルモノトス

月ノ中途ニ於テ組合ニ加入シタル者ノ其ノ月分ノ組合費ハ給料月額ヲ其ノ月ノ在職日數ヲ以テ日割シタル額ノ千分ノ十五ノ額トス

月ノ中途ニ於テ組合ヲ脱退シタル者ノ其ノ月分ノ組合費ハ第一項ニ依ル但シ日給ヲ受クル者ハ其ノ月ノ在職日數ヲ以テ日割セシ額ノ千分ノ十五ノ額トス

既納ノ組合費ハ之ヲ還付セズ但シ組合長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 給料額ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ翌月ヨリ組合費ヲ改定ス但シ月ノ初日ヨリ給料額ニ異動ヲ生ジタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 組合ハ組合員ノ受クベキ給料中ヨリ其ノ組合費ヲ直接徴集スルコトヲ得

第十條 組合員戰時若ハ事變ニ際シ兵役法、徴發令、國民徴用令或ハ其ノ他ノ法令ニ依リ召集(演習召集ヲ除ク)徴發、徴用セラレ又ハ外國勤務ヲ命ゼラレタルトキハ召集、徴發、徴用セラレ又ハ外國勤務ヲ命セラレタル日ノ屬スル月ヨリ其ノ解除又ハ其ノ勤務ヲ離ルル日ノ屬スル月ニ至ル間ノ組合費ハ之ヲ徴集セズ

組合員ニシテ兵役法ニ依ル徴集ノ爲休職ヲ命ゼラレタル者及休職中ノ入營者ニシテ本市戰時事變應召者給料支給特例ニ關スル條例ノ適用ヲ受クルニ至リタル者ハ前項ノ規定ヲ準用ス

第四章 共濟給付

第一節 通則

第十一條 共濟給付(以下單ニ給付ト稱ス)ハ左ノ七種トス

- 一 療養費
- 二 傷病手当金
- 三 分娩給與金
- 四 婚姻給與金
- 五 弔慰金
- 六 無事故表彰金
- 七 特別共濟金

第十二條 給付ノ事由併發シタルトキハ當該給付ヲ併給ス但シ特別ノ規定アル場合ハ此

ノ限ニ在ラス

第十三條 給付ノ算定ニ付給料額ヲ基準トスル場合ニ於テ給料額ニ異動ヲ生ジタルトキハ第八條ノ規程ヲ準用ス

第十四條 組合員組合ヲ脱退シタル際疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ自己又ハ其ノ家族ニ付現ニ給付ヲ受ケツツアルトキハ組合員又ハ其ノ家族トシテ給付ヲ受クルコトヲ得ベカリシ期間繼續シテ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得但シ組合脱退ノ際六月間引續キ組合員タリシ場合ニ限ル

前項ニ於ケル家族トハ六月以上組合員タリシ者ト同一戸籍内ニ在ル者ニシテ之ト同居シ且主トシテ其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ヲ謂フ但シ内縁ノ夫婦若ハ親子ト認ムベキ者ヲ含ム

第十五條 法令其ノ他ノ規程ニ基キ組合ノ爲スベキ給付ト同種ノ給付ヲ受クルコトヲ得ベキ者ニ付テハ其ノ受クルコトヲ得ベキ限度ニ於テ給付ハ之ヲ爲サズ給付事由ガ第三者ノ行爲ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ其ノ第三者ヨリ給付ヲ受クルコトヲ得ベキトキ亦同ジ

第十六條 組合員戰時若ハ事變ニ際シ兵役法、徵發令、國民徵用令或ハ其ノ他ノ法令ニ依リ召集、徵集、徵發、若ハ徵用セラレタルトキ又ハ外國ニ勤務シタルトキハ其ノ期間第十一條第一號乃至第三號及第六號ノ給付ハ之ヲ爲サズ但シ其ノ場合ト雖モ其ノ家族ノ傷病又ハ分娩ニ關スル給付ハ之ヲ支給ス

第十七條 組合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行ヒ又ハ療養ニ關スル指揮ヲ爲スコトヲ得
一
正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミ又ハ指揮ニ從ハザル者ニ對シテハ給付ノ全部又ハ一部ヲ爲サザルコトアルベシ

第十八條 組合員及其ノ家族詐欺其ノ他不正ノ行爲ト依リ給付ヲ受ケ若ハ受ケントシタルトキ又ハ鬭爭、泥酔若クハ著シキ不行跡ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生ゼシメタルトキハ給付ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトアルベシ

前項ノ場合既ニ支給セル給付金アリタルトキハ之ヲ返還セシムルコトアルベシ
第十九條 懲戒處分其ノ他之ニ類スル處分ヲ受ケタルトキハ爾後給付ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトアルベシ

第二十條 給付ヲ請求スベキ者ハ別ニ之ヲ定ム

前項ノ給付請求者給付事由ノ發生シタル日ヨリ起算シ一年以内ニ給付ノ請求ヲ爲サザルトキハ當該給付ハ之ヲ爲サズ

第二十一條 給付ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ズ

第二節 療 養 費

第二十二條 組合員疾病又ハ負傷ニ關シ療養ヲ受ケタルトキハ療養費トシテ左ノ額ヲ支給ス

一 組合ノ指定シタル醫療機關ニ就キ療養ヲ受ケタルトキハ其ノ療養ニ要スル費用ヨリ組合員ノ支拂フベキ一部負擔金ヲ控除シタル額

二 第二十五條ノ二ニ規定スル醫療機關ニ就キ療養ヲ受ケタルトキハ其ノ療養ニ要スル費用ノ十分ノ八ニ相當スル額

三 組合ノ指定シタル以外ノ醫療機關ニ就キ療養ヲ受ケタル場合ニ於テ組合長正當ノ理由アリト認ムルトキハ其ノ療養ニ要スル費用ノ十分ノ八ニ相當スル額

第二十二條ノ二 第十四條第二項ニ規定スル家族疾病又ハ負傷ニ關シ組合ノ指定シタル

醫療機關又ハ第二十五條ノ二ニ規定スル醫療機關ニ就キ療養ヲ受ケタルトキハ療養費トシテ療養ニ要スル費用ノ十分ノ五ニ相當スル額ヲ支給ス

前項ノ家族組合ノ指定シタル以外ノ醫療機關ニ就キ療養ヲ受ケタル場合ニ於テ組合長正當ノ事由アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ準ジ療養費ヲ支給スルコトヲ得

第二十三條 組合員及第十四條第二項ニ規定スル家族ニ對シ療養費ヲ支給スベキ療養ノ

範圍左ノ如シ

一 診 察

二 藥劑又ハ治療材料ノ支給

三 處置、手術其ノ他ノ治療

四 入 院

五 看 護

六 移 送

前項第四號乃至第六號ノ療養ニ付テハ組合長ノ承認ヲ受ケタルモノニ限ル但シ緊急ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條 療養ニ要スル費用ノ算定及組合員ノ支拂フベキ一部負擔金ノ額ニ付テハ別

ニ組合長之ヲ定ム

第二十五條 削除

第二十五條ノ二 組合員又ハ其ノ家族組合ノ特ニ指定シタル醫療機關ニ就キ療養ヲ受ケタルトキハ組合ハ組合員ノ負擔スベキ療養費ヲ立替支拂フコトヲ得
前項ノ立替金ハ其ノ立替ヲ爲シタル月ニ於テ組合員ノ給料其ノ他諸給與金又ハ組合ヨリ支給スベキ給付金等ヨリ一時ニ之ヲ組合ニ返納セシム
第一項ノ醫療機關ハ組合長別ニ之ヲ定ム

第二十六條 療養費ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ關シ其ノ支給ヲ始メタル日ヨリ起算シ六月ヲ經過シタルトキハ之ヲ支給セズ

結核性疾病ニ關シテハ前項ノ期間ヲ超エ尙六月以内繼續シテ療養費ヲ支給スルコトヲ得但シ療養費ノ支給ヲ始メタル日前三月以上引續キ組合員タリシ者及第十四條第二項ニ規定スル家族ニ限ル

結核性呼吸器病罹患職員ノ措置ニ關スル規程ニ依リ休養治療ヲ命セラレ出勤ヲ停止セラレタル組合員ニ對シテハ前項ノ期間ヲ超ヘ更ニ一年以内繼續シテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

第二十七條

組合員又ハ第十四條第二項ニ規定スル家族組合ノ指定シタル醫療機關ニ就キ療養ヲ受ケタル場合ニ於テ組合員ハ自己ノ負擔スベキ費用ヲ醫療機關ニ支拂ヒ組合ハ其ノ負擔スベキ療養費ヲ直接醫療機關ニ支拂フモノトス、組合員又ハ第十四條第二項ニ規定スル家族第二十五條ノ二ニ規定スル醫療機關ニ就キ療養ヲ受ケタル場合ニ於テ組合ハ其ノ負擔スベキ費用ト共ニ組合員ノ負擔スベキ費用ヲ立替ヘテ醫療機關ニ支拂フモノトス

前二項ノ場合ニ於テ組合員ノ負擔スベキ費用ノ算出ニ際シ錢位未滿ノ端數生ゼシトキハ之ヲ一錢ニ切上グルモノトス

第一項及第二項ノ規定ニ依リ組合醫療機關ニ對シ費用ヲ支拂ヒタル場合ニ於テハ其ノ限度ニ於テ組合員ニ對シ療養費ヲ支給シタルモノト看做ス

第二十二條第三號及第二十二條ノ二第二項ノ場合ニ於テハ組合員ハ自ラ醫療機關ニ費用ノ全額ヲ支拂ヒタル後別ニ定ムル所ニ從ヒ組合ニ對シ療養費ノ請求ヲ爲シ組合ハ組合員ニ對シ當該給付ヲ爲スモノトス

第一項、第二項及前項ノ規定ハ第十四條ノ場合ニ準用ス

第三節 傷病手當金

第二十八條 組合員療養ノ爲引續キ四日以上缺勤シタル場合ニ於テハ缺勤第四日目ヨリ傷病手當金トシテ其期間日割ヲ以テ給料日額ノ十分ノ五ニ相當スル額ヲ支給ス
前項ノ傷病手當金ハ有給吏員給料支給規則並京都市雇員傭人給料支給規則又ハ結核性呼吸器病患者給料支給特例ニ關スル條例ニ依リ給料ノ支給ヲ受クル場合ニ於テハ之ヲ支給セズ

第二十九條 第二十六條ノ規定ハ傷病手當金ノ支給ニ付キ之ヲ準用ス
傷病手當金ハ第二十六條ノ規定ニ依ル療養費ノ支給ヲ爲シ得ル期間ヲ經過スルニ至リタルトキハ之ヲ支給セズ

第四節 分娩給與金

第三十條 組合員又ハ組合員ノ妻分娩シタルトキハ分娩費トシテ左ノ額ヲ支給ス但シ夫婦共ニ組合員タル場合ハ第二號ノ額ハ之ヲ支給セズ

- 一、組合員 三十圓
- 二、組合員ノ妻 十圓

前項第二號ニ關シテハ第十四條第二項但書ノ規定ヲ準用ス

第三十一條 組合員分娩ノ爲執務セザルニ至リタルトキハ分娩手當金トシテ分娩ノ日前二十八日分娩ノ日以後四十二日以内ヲ限リ日割ヲ以テ給料日額ノ十分ノ五ニ相當スル額ヲ支給ス

第二十八條第二項ノ規定ハ分娩手當金ノ支給ニ之ヲ準用ス

第三十二條 分娩手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其期間傷病手當金ハ之ヲ支給セズ

第五節 婚姻給與金

第三十三條 組合員ガ結婚シ民法第七百七十五號ノ届出ヲ爲シタルトキハ婚姻給與金トシテ二十圓ヲ支給ス

組合員結婚ノ爲組合ヲ脱退シ其ノ日後六月以内ニ民法第七百七十五條ノ届出ヲ爲シタルトキハ前項規程ヲ準用ス但シ組合脱退ノ際六月間引續キ組合員タリシ者ニ限ル
已ムヲ得サル事由ニ依リ前二項ノ届出ヲ爲スコト能ハザルトキハ組合長ノ承認ヲ經テ婚姻給與金ヲ支給スルコトアルベシ

第六節 弔慰金

第三十四條 組合員又ハ之ト同一戸籍内ニ在ル者死亡シタルトキハ左ノ區別ニ依リ弔慰

金ヲ支給ス但シ家族死亡ノ場合ニ於テ組合員ガ其葬儀執行者ニ非ザルトキハ弔慰金ハ之ヲ半額トス

- 一、組合員本人 五十圓
- 二、父母、配偶者 三十圓
- 三、子（但シ十四日以上生存シタルコトヲ要ス） 二十圓
- 四、兄弟姉妹 十圓

組合員ト同一戸籍内ニ在ラサル父母及第十四條第二項但書ニ規定サレタル者死亡シタルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第三十五條 組合員死亡ニ因ル弔慰金ハ之ヲ組合員死亡當時ニ於ケル左ノ順位ノ該當者ニ對シ支給ス但シ第三號ノ場合ハ前條ノ額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

- 一、組合員ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フ者
- 二、組合員ト同一戸籍内ニ在リタル者（内縁關係ヲ含ム）ニシテ埋葬ヲ行フ者
- 三、前二號ノ該當者無キトキハ埋葬ヲ行ヒタル者

第七節 無事故表彰金

第三十六條 三年度以上ヲ通シ無事故ノ爲第十一條第一號、第二號及第七號ノ給付ヲ受ケザル組合員ニ對シ表彰金品ヲ支給スルコトヲ得

第八節 特別共濟金

第三十七條 第十一條第一號乃至第六號ニ定ムル給付ヲ受クル事由ニ該當セザルモ特ニ共濟ヲ要スル事情アルトキ又ハ之ヲ受クルモ尙共濟ノ必要アリト認ムルトキハ組合長ハ理事會ノ意見ヲ聽キ特別共濟金ヲ支給スルコトヲ得
特別共濟金ノ額ハ其ノ都度組合長之ヲ定ム

第五章 福利事業

第三十八條 組合ハ組合員ノ福利ヲ増進スル爲組合ニ於テ市長ノ承認ヲ受ケタル事業ヲ行フコトヲ得

第六章 財務

第三十九條 組合ノ經費ハ組合費、國庫助成金、市補給金其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條 組合ノ會計年度ハ市ノ會計年度ニ依ル

第四十一條 組合費ノ徴收、出納及財産ノ管理其ノ他會計事務ニ關スル事項ハ市長ノ承認ヲ經テ組合長別ニ之ヲ定ム

第七章 組合ノ機關

第一節 役員及職員

第四十二條 組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長	一名
副組合長	一名
顧問	若干名
理事	若干名
常任理事	若干名
會計幹事	若干名
監事	若干名
委員	若干名
評議員	若干名

第四十三條 組合長ハ第一助役、副組合長ハ第二助役ヲ以テ之ニ充ツ

第四十四條 組合長ハ組合ヲ代表シ組合ニ關スル諸般ノ事務ヲ總理ス

副組合長ハ組合長ヲ輔佐シ組合長故障アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第四十五條 顧問ハ市職員中ヨリ市長之ヲ命ズ

顧問ハ組合ノ重要ナル事項ニ付組合長ノ諮問ニ應ズルモノトス

第四十六條 理事ハ市職員中ヨリ市長之ヲ命ズ

理事ハ理事會ヲ組織シ組合ノ重要ナル事項ニ付組合長ノ諮問ニ應ズルモノトス

第四十七條 常任理事ハ理事會中ヨリ市長之ヲ命ズ

常任理事ハ組合長ノ命ヲ承ケ組合ノ常務ヲ執行ス

第四十七條ノ二 會計幹事ハ市職員中ヨリ市長之ヲ命ズ

會計幹事ハ組合長ノ命ヲ承ケ組合ノ收入ニ關スル事務ヲ執行ス

第四十八條 監事ハ市職員中ヨリ市長之ヲ命ズ但シ理事及評議員ヲ兼スルコトヲ得ズ

監事ノ職務左ノ如シ

一、歳入出決算ヲ検査シ意見ヲ附スコト

二、評議員會ノ要求アリタルトキ又ハ自ラ必要アリト認メタルトキハ臨時會計検査ヲ爲スコトヲ得

第四十八條ノ二 委員ハ市職員中ヨリ組合長之ヲ委囑ス

委員ハ委員會ヲ組織シ組合ノ事業運営上重要ナル事項ニ付組合長ノ諮問ニ應スルモノトス

委員ハ組合ノ各種事業毎ニ之ヲ置クコトヲ得

第四十九條 評議員ノ半數ハ組合員中ヨリ組合長之ヲ命ジ半數ハ推薦區所屬組合員中ヨリ推薦區長ノ推薦シタル者ニ付組合長之ヲ命ズ

前項推薦區推薦區長、推薦スベキ員數ハ組合長別ニ之ヲ定ム評議員ハ評議員會ヲ組織シ組合ノ重要ナル事項ニ付評議ス

第五十條 評議員ニ缺員ヲ生ジタルトキハ速ニ補充スルモノトス
補缺ノ爲任命セラレタル評議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第五十一條 評議員ノ任期ハ二年トス
推薦區長ノ推薦ニ依ル評議員所屬推薦區外ニ異動シタルトキハ評議員タルノ資格ヲ失

フ

評議員ハ任期滿了後又ハ前項ニ依リ其ノ資格ヲ喪失シタル後ト雖モ後任者ノ就任スル迄其ノ職ニ當ルモノトス

第五十二條 評議員ハ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ズ但シ組合長ノ承認ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十三條 組合ニ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

- 事務長 一名
- 事務員 若干名
- 囑託員 若干名
- 看護婦 若干名
- 事務囑託 若干名

第五十四條 事務長ハ市職員中ヨリ組合長之ヲ囑託ス
事務員ハ組合長之ヲ任命シ又ハ市職員中ヨリ之ヲ囑託ス
囑託ハ組合長之ヲ囑託ス
看護婦ハ組合長之ヲ任命ス

事務囑託ハ市職員中ヨリ組合長之ヲ囑託ス

第五十五條 事務長ハ上司ノ命ヲ承ケ組合ノ事務ヲ處理ス

事務員及事務囑託ハ上司ノ命ヲ承ケ組合ノ事業ニ従事ス

囑託及看護婦ハ上司ノ命ヲ承ケ組合ノ事業ニ従事ス

第五十六條 第五十三條ニ依ル職員ノ給與ニ關シテハ組合長之ヲ定ム

第二節 評議員會

第五十七條 評議員會ノ評議スベキ事項左ノ如シ

一、歳入出豫算ニ關スル事項

二、事業報告及決算ニ關スル事項

三、本規則改正ニ關スル事項

四、京都市職員共濟組合條例第一條ノ目的ヲ達スル爲ノ方策ニ關スル事項

五、其他組合長ニ於テ必要ト認ムル事項

第五十八條 評議員會ハ組合長之ヲ招集ス

評議員定數ノ二分ノ一以上ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ評議員會招集ノ請求アリタルトキ

ハ組合長ハ十日以内ニ之ヲ招集スルコトヲ要ス

第五十九條 評議員會ハ評議員定數ノ半數以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ

本規則改正ノ議決ニハ評議員定數ノ五分ノ三以上ノ出席アルコトヲ要ス

第六十條 組合長ハ評議員會ノ議長トナル

評議員會ノ議事ハ衆議ニ依リ議長之ヲ統裁ス

第六十一條 議長ハ議事録ヲ作製シ出席議員中議長ノ指定シタル評議員二名ヲシテ之ニ署名セシム

第八章 雜 則

第六十二條 本組合ニ於テ組合員ニ對シ公示スベキ事項ハ京都市公報ニ登載ス

第六十三條 本規則ニ定ムル組合費又ハ給付金ニシテ錢位未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツルモノトス

第六十四條 本規則施行ニ關シ必要ナル事項ハ組合長別ニ之ヲ定ム

附 則 (昭和十六年五月一日市告示第三二八號)

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本規則施行ノ際現ニ第四條ノ規定ニ該當スル本市職員ハ本規則施行ノ日ヨリ組合員タルモノトス

前項組合員ニ關シテハ第十四條、第二十六條第二項但書、第三十三條第二項但書ニ於ケル組合員タリシ期間ニ付テハ本市在職ノ期間ヲ通算ス本市電氣局共濟組合員、本市運輸部共濟組合員、本市電氣局健康保險組合被保險者、本市運輸部健康保險組合被保險者又ハ本市健康保險組合被保險者タリシ者其ノ組合ヲ脱退シ引續キ本組合員トナリタル場合亦同ジ

附 則 (昭和十六年五月二十九日市告示第三四五號)

本規則ハ昭和十六年五月一日ヨリ之ヲ適用ス

附 則 (昭和十七年三月十九日市告示第六〇號)

本規則ハ昭和十六年八月十二日ヨリ之ヲ適用ス

附 則 (昭和十七年四月十六日市告示第八十八號)

本規則ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

附 則 (昭和十八年二月十八日市告示第十三號)

本規則ハ昭和十八年二月四日ヨリ之ヲ適用ス

附 則 (昭和十八年四月八日市告示第六十五號)

本規則ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

附 則 (昭和十九年四月日市告示第 號)

本規則ハ昭和十九年四月一日ヨリ適用ス但シ第二十六條第二項次ノ改正ハ昭和十九年二月四日ヨリ之ヲ適用ス

京都市職員共濟組合規施行細則

第一章 總 則

第一條 本細則ニ於テ規則トハ京都市職員共濟組合規則ヲ所屬長トハ各課、係、區、廳學校又ハ幼稚園ノ長ヲ謂フ

第二條 組合員又ハ組合員タリシ者若ハ其ノ遺族ガ本細則ニ定ムル所ニ依リ届書、申請書、請求書其ノ他ノ文書ヲ組合ニ提出セントスルトキハ所屬長又ハ元所屬長ヲ經由ス

ベシ但シ特ニ組合ヨリ指示アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 所屬長ハ前條ノ文書ヲ受理シタルトキハ之ヲ審査シ本細則所定ノ證明ヲナシタル上遲滞ナク組合ニ回付スベシ所屬長必要アリト認メタルトキハ意見ヲ附スルコトヲ得

第二章 組合員

第四條 組合員タルベキ資格ヲ取得シタル者ハ直ニ様式第一號ニ依ル組合員届ヲ組合ニ提出スベシ

前項ノ届出事項ニ異動アリタルトキ又ハ規則第五條及第十六條ニ該當シ若ハ該當セザルニ至リタルトキハ直ニ様式第二號ニ依ル組合員異動届ヲ組合ニ提出スベシ

第五條 所屬長ハ前條ノ組合員届及第三章ニ規程スル組合員證ニ基キ様式第三號ニ依ル組合員名簿ヲ作製シ之ヲ保管スベシ

所屬長ハ前條第二項ノ届出アリタルトキ又ハ京都市職員共濟組合會計規則施行細則ニ定ムル所ノ組合費明細書又ハ組合費異動明細書ノ送付ヲナシタルトキハ前項組合員名簿ヲ整理スベシ

第六條 組合ハ組合員届ニ基キ様式第四號ニ依ル組合員臺帳及様式第五號ニ依ル組合員連名簿ヲ作製シ組合員異動届、共濟給付決定通知書又ハ指定醫ヨリノ請求書ニ基キ之等帳簿ヲ整理スベシ

第三章 組合員證

第七條 組合員ニ對シテハ様式第六號ニ依ル組合員證ヲ交付ス

組合員證表紙ノ自署欄ハ組合員自ラ記入捺印スベシ

組合員證ハ組合員又ハ其ノ家族之ヲ使用スル外人ニ貸與又ハ讓渡スルコトヲ得ズ

第八條 組合員證表紙裏面ノ記載事項ニ異動アリタルトキハ組合員ハ直ニ之ヲ組合ニ提出シ其ノ改訂ノ記入ヲ受ケ更ニ返付ヲ受クベシ

第九條 組合員證ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ之ニ餘白ナキニ至リタルトキハ組合員ハ直ニ組合員證ヲ添へ(滅失ノ場合ヲ除ク)様式第七號ニ依ル組合員證(滅失毀損無餘白)再下附申請書ヲ以テ其ノ旨組合ニ届出デ其ノ再下附ヲ申請スベシ

第十條 組合員組合ヲ脱退シタルトキハ直ニ組合員證ヲ返納スベシ但シ組合脱退後繼續シテ共濟給付ノ支給ヲ受クル場合ハ組合員證ヲ組合ニ提出シ其ノ旨ノ記入ヲ受ケ更ニ

返付ヲ受クベシ
 前項但書ノ場合ニ於テ共濟給付ノ支給ヲ受ケザルニ至リタルトキハ直ニ組合員證ヲ組合ニ返納スベシ
 組合員死亡シタルトキハ弔慰金ノ支給ヲ受クベキ者ニ於テ直ニ組合員證ヲ組合ニ返納スベシ

第四章 共濟給付

第十一條 本細則ニ於テ指定醫療機關ヲ指定醫ト稱シ指定藥劑師ヲ含ムモノトス
 組合長醫療機關ヲ指定シタルトキハ之ヲ公示スベシ

第十二條 規則第二十四條ニ依ル療養ニ要スル費用及一部負擔金ノ額ハ昭和十八年二月八日厚生省告示第六十六號健康保險法施行令第七十六條第二項ノ療養ニ要スル費用ノ算定方法及昭和十八年二月八日厚生省告示第六十七號健康保險法第四十三條ノ二ノ規定ニ依ル一部負擔金ノ額ニ依ル但シ規則第二十五條ノ二ニ規程スル醫療機關ニ付テハ當該醫療機關トノ診療契約ニ定ムル所ニ依リ、看護料ハ府縣公認料金表ニ依リ之ヲ算定ス

第十三條 規則第二十五條ノ二第一項ニ依ル療養費ノ支拂ヲ爲シタルトキハ組合ハ事務囑託ヲ經由ノ上當該組合員ニ對シ之ヲ通知ス

第十四條 規則第三十一條ニ於ケル分娩當日ハ分娩日以後ノ日數ニ算入ス

第十五條 組合ハ共濟給付ヲ決定セルトキハ様式第八號ニ依ル共濟給付決定通知書ヲ以テ組合員ニ通知スベシ但シ組合員ガ指定醫ニ就キ療養ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 規則第十四條ニ依リ組合員組合ヲ脱退シタル際繼續シテ給付ヲ受ケントスル者ハ組合員證ト共ニ様式第九號ニ依ル共濟給付支給繼續届ヲ組合ニ提出スベシ

第十七條 規則第十五條ニ規定スル法令其ノ他ノ規定ニ基キ給付ヲ受クル者其ノ給付ガ組合ヨリ受クベキ給付ヨリ少額ナルトキハ様式第十號ニ依リ其ノ差額ノ支給ヲ組合ニ申請スベシ但シ法令其ノ他ノ規定ニ依ル給付額ニ關スル證憑書類ヲ添付スルヲ要ス
 規則第十五條ニ規程スル第三者ヨリ給付ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ様式第十一號ニ依ル第三者ノ行爲ニ因ル給付事由發生届ヲ組合ニ提出スベシ

第十八條 規則第二十二條第一號又ハ第二號ニ依リ療養ヲ受ケントスルトキハ組合員證

ヲ其ノ醫療機關ニ提出スベシ但シ已ムヲ得ザル事由ニ依リ組合員證ヲ提出シ難キトキハ其ノ旨ヲ療養ヲ受ケントスル醫療機關ニ申出デ事由止ミタル後遲滯無ク之ヲ指定醫ニ提出スベシ

組合員ハ毎回ノ診療直後自己負擔額ヲ指定醫ニ支拂ヒ指定醫ヨリ組合員證ニ必要事項ノ記入捺印ヲ受ケ其ノ返付ヲ受クベシ

第十九條 規則第二十二條ノ二第一項ニ依リ組合員ノ家族療養ヲ受ケントスル場合ハ様式第三十號ニ依リ家族診療券ノ交付ヲ組合ニ申請シ組合ヨリ様式第二十九號ニ依ル家族診療券ヲ受領シ之ヲ醫療機關ニ提出スベシ但シ已ムヲ得ザル事由ニ依リ家族診療券ヲ提出シ難キトキハ其ノ旨ヲ療養ヲ受ケントスル醫療機關ニ申出デ其ノ事由止ミタル後遲滯無ク之ヲ其ノ醫療機關ニ提出スベシ

第二十條 削除

第二十一條 組合員又ハ其ノ家族ガ指定醫以外ノ醫師ニ就キ療養ヲ受ケントスルトキハ様式第十五號ニ依リ其ノ療養ノ承認ヲ組合ニ申請シ組合ヨリ承認書ノ交付ヲ受クベシ療養ヲ終リタルトキハ詳細ナル病名及療養ニ要シタル費用ノ領收證憑書類並ニ組合員證ヲ添ヘ様式第十六號ニ依リ療養費ノ支給ヲ組合ニ申請スベシ

組合員本府外ニ居住スルトキハ第一項ノ療養承認申請書ハ提出スルヲ要セズ

第二十二條 規則第二十三條第二項ニ依リ組合員又ハ其ノ家族療養ニ付組合ノ承認ヲ要スル場合ハ左ノ各號ニ依リ組合ニ申請スベシ

- 一 入院ノ承認申請ハ様式第十七號ニ依ルベシ此ノ場合醫師ノ意見ヲ記載スルヲ要ス
- 二 看護移送ノ承認申請ハ様式第十八號ニ依ルベシ此ノ場合醫師ノ意見ヲ記載スルヲ

要ス

第二十二條ノ二 規則第二十三條第二項ニ依リ組合員又ハ其ノ家族入院ヲ必要トスル場合ニ於テ昭和十八年二月八日厚生省告示第六十五號健康保險法施行規則第五十六條ノ

三第三項第二號ノ規定ニ依ル疾病又ハ負傷ニ該當スルトキハ組合長ノ承認ヲ要セズ

第二十三條 緊急其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ依リ第十九條、第二十一條第一項ノ療養承認又ハ前條ノ承認申請ヲ爲サズシテ療養ヲ受ケタルトキハ其ノ事由止ミタル後遲滯無ク事由書ヲ添ヘ所定ノ申請ヲナスベシ

第二十四條 看護費ノ請求ハ様式第十九號ニ依リ看護シタル看護婦又ハ看護婦會主ヨリ組合ニ提出スルモノトス但シ食費寢具料及車馬賃ニシテ支拂ヒタルモノアルトキハ其

ノ領收書ヲ添付スベシ自炊又ハ食券購入等領收書得難キ場合ハ其事由書ヲ添付スベシ
組合員又ハ其ノ他ノ者前項費用ノ立替拂ヲナシタル場合ニ於テハ看護婦又ハ看護婦會
主ノ領收書ヲ添付シ立替拂者之ガ請求ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ請求書ニハ看護期間ニ關スル醫師ノ證明ヲ記載スルヲ要ス

第二十五條 移送費ノ請求ハ様式第二十號ニ依リ組合員又ハ其ノ家族ヲ移送シタル者ヨ
リ組合ニ請求スルモノトス

組合員又ハ其ノ他ノ者前項費用ノ立替拂ヲ爲シタル場合ニ於テハ移送者ノ領收書ヲ添
付シ立替拂者之ガ請求ヲ爲スコトヲ得領收書ヲ得難キトキハ其ノ事由書ヲ添付スベシ
前二項ノ請求書ノ區間欄ニハ所在地ヲ明記シ移送區間及回数ニ關スル醫師ノ證明ヲ記
載スルヲ要ス

第二十六條 削除

第二十七條 療養費以外ノ共濟給付ノ支給ハ左ノ各號ニ依ル

一 規程第二十八條ニ依ル傷病手當金ノ請求ハ様式第二十二號甲ニ依ルベシ此ノ場合
所屬長ヨリ職務ニ服セザリシ期間ノ證明ノ記載ヲ受クルト共ニ様式第二十二號乙ニ

依ル醫師ノ意見書ヲ添付スルヲ要ス

二 所屬長ハ其ノ所屬員ニシテ規則第三十條ニ依ル分娩費ノ支給ヲ受クベキ組合員在
ルトキハ直ニ様式第二十三號ニ依リ組合ニ報告スベシ此ノ場合市區町村長又ハ醫師
若ハ産婆ノ出產證明書ヲ組合員ヨリ徴シ添付スベシ

三 規則第三十一條ニ依ル場合ノ分娩手當金ノ請求ハ様式第二十四號ニ依ルベシ此ノ
場合所屬長ヨリ職務ニ服セザリシ期間ニ關スル證明ノ記載ヲ受クルコトヲ要ス

四 所屬長ハ其ノ所屬員ニシテ規則第三十三條ニ依ル婚姻給與金ノ支給ヲ受クベキ組
合員在ルトキハ直ニ様式第二十五號ニ依リ組合ニ報告スベシ此ノ場合戶籍謄本又ハ
抄本ヲ組合員ヨリ徴シ添付スベシ

但シ規則第三十三條第三項ニ依ル場合ハ婚姻當事者双方ノ良務謄本及ビ所屬長ノ證
明書ヲ添付スベシ

五 所屬長ハ其ノ所屬員ニシテ規則第三十四條ニ依ル弔慰金ノ支給ヲ受クベキ組合員
在ルトキハ直ニ様式第二十六號ニ依リ組合ニ報告スベシ此ノ場合死亡者ガ組合員ト
同一戶籍内ニ在ル者ナルトキハ死亡者抹消濟ノ戶籍謄本又ハ抄本ヲ組合員又ハ正當

受領者ヨリ徴シ添付シ死亡者ガ規則第三十四條第二項ニ規定スル者ナルトキハ醫師ノ死亡證明書及所屬長ノ證明書並埋葬費金額ニ關スル證憑書類ヲ組合員又ハ正當受領者ヨリ徴シ添付スベシ

六 規則第三十七條ニ依ル特別共濟金支給ノ申請ハ様式第二十七號ニヨルベシ此ノ場合ハ所屬長ノ實情調査書ヲ添付スルコトヲ要ス

第二十七條ノ二 所屬長ハ前條第二號、第四號又ハ第五號ニヨリ組合ニ報告シタルトキハ組合ヨリ所定ノ金員ヲ假受シ之ヲ該當組合員又ハ正當受領者ニ交付スルト共ニ遲滞ナク領收書ヲ徴シ組合ニ提出スベシ

第二十八條 第二十一條第二項第二十七條第一項第一號及第三號ニヨル請求書ハ前月分ヲ其ノ月五日迄ニ組合ニ提出スベシ

前項期限迄ニ提出アルモノニ對シテハ其ノ月ノ十五日迄ニ支給ス

附 則 (昭和十六年五月一日市告示第三二九號)

本細則ハ京都市職員共濟組合規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十六年五月一日組合公示第十一號)

本細則ハ昭和十六年五月一日ヨリ適用ス

附 則 (昭和十七年九月十日組合公示第四十九號)

本細則ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

附 則 (昭和十八年四月二十二日組合公示第五號)

本細則ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

附 則 (昭和十九年四月日組合公示第一號)

本細則ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

京都市職員共濟組合會計規程

第一章 總 則

第一條 本組合ノ會計ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 物品ノ購入、賣却等ニ關シテハ京都市物品購入賣却規程並ニ同施行細則ヲ準用ス

第三條 組合ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖ス

第四條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歲入ニ編入スベシ但シ評議員會ノ議決ニ依リ剩餘金ノ全部又ハ一部ヲ積立金ニ編入スルコトヲ得

第二章 豫算及決算

第五條 組合長ハ毎會計年度歲入出豫算ヲ調製シ年度開始前評議員會ノ議決ヲ經ベシ

第六條 評議員會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ組合長ハ其ノ謄本ヲ收入役ノ職ニ在ル常任理事(以下單ニ會計常任理事ト稱ス)ニ交付スルモノトス

第七條 組合長ハ評議員會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第八條 決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證憑書類ヲ併セテ會計常任理事ヨリ組合長ニ提出スベシ

組合長ハ監事ヲシテ前項決算書ヲ検査セシメ其ノ意見ヲ徴シタル後次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ評議員會ノ認定ニ付スルモノトス

組合長ハ前項評議員會ニ對シ前會計年度ノ事業報告ヲ提出スルモノトス

第九條 組合ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第三章 收入

第十條 組合費ノ收入ハ所得稅控除ノ例ニ依リ之ヲ毎月給料ヨリ控除ノ上收入手續ヲナスモノトス

療養費立替金ノ償還收入ハ療養費償還金拂込書ニ依リ收入ノ手續ヲ爲スモノトス

第十一條 收入命令、戻入命令、振替命令又ハ更正命令ハ組合長之ヲ會計常任理事ニ對シ發スルモノトス

第十二條 前條ニ規定スル命令ハ人事課長ノ職ニ在ル常任理事(以下單ニ庶務常任理事ト稱ス)ヲ以テ之ニ代行セシムルコトヲ得

第十三條 歲入ノ過誤納ト爲リタル金額ノ拂戻ハ之ヲ收入シタル科目ヨリ還付スルモノトス

第四章 支出

第十四條 支出ハ總テ債主ノ請求書ニ依ル但シ請求書ヲ徴シ難キ場合又ハ請求書ヲ必要トセザル場合ハ支拂調書ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

第十五條 支出命令又ハ還付命令ハ組合長之ヲ會計常任理事ニ對シ發スルモノトス

第十六條 前條ニ規定スル命令ハ千圓未滿ノモノニ限り庶務常任理事ヲシテ之ヲ代行セ

シムルコトヲ得

第十七條 特別ノ支出ニシテ支拂資金ヲ要スルモノアルトキハ五百圓以内ノ資金前渡ヲ爲スコトヲ得

第十八條 旅費其ノ他特ニ必要ト認ムル支出ニ付テハ概算拂ヲナスコトヲ得

第十九條 歳出ノ過誤拂トナリタル金額、資金前渡又ハ概算拂ノ返納ハ各之ヲ支出シタル科目ニ戻入スルモノトス

第五章 現金及物品

第二十條 現金ノ出納、保管ハ會計常任理事、物品ノ出納、保管ハ庶務常任理事之ニ當ルモノトス

第二十一條 組合長ハ會計常任理事ヲシテ其ノ保管ニ屬スル歳計現金ヲ京都市金庫事務取扱銀行ニ預入セシムルコトヲ得

組合財産ハ前項ノ他信託會社ニ信託シ又ハ債券ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得但シ評議員會ノ議決ヲ經ルモノトス

第二十二條 會計常任理事事故アルトキハ會計課ニ屬スル常任理事ヲシテ席次ニ順ヒ之

ヲ代行セシム

庶務常任理事事故アルトキハ人事課ニ屬スル常任理事ヲシテ之ヲ代行セシム

第二十三條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ組合長別ニ之ヲ定ム

第二十四條 本規程ニ別段ノ定メナキモノニ付テハ京都市ニ於ケル財務ニ關スル諸規程ヲ準用ス

附 則 (昭和十六年市職員共濟組合公示第七號)

本規程ハ昭和十六年五月一日ヨリ適用ス

京都市職員共濟組合會計規程施行細則

第一章 總 則

第一條 本細則ニ於テ會計規程トハ京都市職員共濟組合會計規程ヲ、會計常任理事トハ收入役ノ職ニ在ル常任理事ヲ謂フ

第二條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

一、組合費ノ收入ハ給料ヲ支給スベキ事實ノ生ジタルトキノ屬スル年度

二、拂込期日ノ一定シタル收入ハ拂込期日ノ屬スル年度
 三、前項以外ノ收入ハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ國庫助成金其ノ他之ニ類スル收入ニシテ其ノ收入ヲ豫定シタル年度ノ出納閉鎖前ニ領收シタルモノハ其ノ豫定ノ年度

第三條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依ル

一 療養費、傷病手当金、分娩給與金、婚姻給與金、弔慰金、無事故表彰金、特別共濟金ノ支拂及給料、手当、旅費、慰勞ノ類ハ之ヲ支給スベキ事實ノ生ジタル日ノ屬スル年度

二 還付金ノ類ハ其ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

三 物品ノ購入代金ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ定メタル支拂期日アルトキハ其支拂日ノ屬スル年度

四 前項ニ掲グルモノノ外ハ總テ支出命令ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二章 豫算及決算

第四條 豫算ノ編成様式並ニ決算様式ハ總テ京都市ノ例ニ依ル

第三章 收入

第五條 事務囑託ハ會計規程第十條第一項ニ依リ組合費ノ仕譯書ヲ作成シタルトキハ同時ニ組合費明細書ヲ作成シ直ニ組合ニ送付スベシ但シ其ノ翌月以降ニ於テハ組合費ニ關シ異動アリタル分ノミヲ組合費異動明細書ニ記載シ之ヲ以テ組合費明細書ニ代フルコトヲ得

第五條ノ二 事務囑託施行細則第十三條第二項ノ規定ニ依ル療養費立替金支拂通知書ノ經由在リタルトキハ組合發行ノ療養費償還金拂込書ニ依リ當該組合員ノ給料其ノ他ノ給與金ヨリ療養費立替金ヲ徴收シ市區役所内派出ノ市金庫事務取扱銀行ニ之ヲ拂込ムベシ

第六條 收入命令ハ收納スベキ金額、所屬年度及收入科目ヲ收入命令簿ニ記入シ之ヲ爲スモノトス但シ組合費收入ノ場合ハ其ノ組合員ノ所屬名ヲ記入スルモノトス

第七條 會計常任理事收入命令ヲ受ケタルトキハ直ニ歳入簿ニ記入スベシ

第八條 出納閉鎖後ノ收入ハ總テ過年度收入費目ニ於テ現年度ノ歳入トス戻入金ニ付テモ亦同ジ

第四章 支出

一一二

第九條 支出命令ハ各附記毎ニ豫算ノ有無確認ノ上其ノ金額ヲ支出命令簿ニ記入シ請求書支拂調書添付ノ上之ヲ爲スモノトス

第十條 會計常任理事前條ノ支拂命令ヲ受ケタルトキハ請求書、支拂調書ノ内容調査ノ上適當ト認ムルモノニ限り歳出簿ニ記入シ支拂準備ヲ爲シ債主ノ領收書ヲ徴シ京都市金庫事務取扱銀行ヲシテ支拂ヲ爲サシムベシ

第十一條 請求書ニハ請求ヲ爲スベキ事由及算出ノ基礎ヲ明記シ各附記毎ニ別紙トナスベシ

第十二條 資金前渡又ハ概算拂ハ精算ヲ爲シタル後ニ非ザレバ再度請求ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條 豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ズ
豫算各項ノ金額ハ評議員會ノ議決ヲ經テ流用スルコトヲ得、豫備費ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得、費目ノ流用又ハ豫備費ヲ支出セントスルトキハ組合長之ヲ會計常任理事ニ通知スルモノトス

第十四條 超過拂金、資金前渡又ハ概算拂ニシテ戻入ヲ要スルモノアルトキハ戻入書ヲ作成シ本人ニ納付書ヲ交付スルト共ニ戻入命令ヲ爲スモノトス

會計常任理事ハ前項ノ戻入命令ニ依リ受入ノ手續ヲ爲スベシ

第十五條 出納閉鎖後ノ支出ハ總テ過年度支出費目ニ於テ現年度ノ歳出トス歳入還付金ニ付テモ亦同ジ

第五章 計 算

第十六條 會計常任理事ハ收支ノ都度之ヲ調査シ收支日計表ヲ作成シ證憑書類ニ依リ歳入簿、歳出簿及現金出納簿ヲ整理スベシ

第十七條 會計常任理事ハ毎月歳入簿、歳出簿ニ依リ收支報告書ヲ調製シ翌月十日迄ニ組合長ニ提出スベシ

第六章 證 憑 書 類

第十八條 證憑書類ハ改竄ヲ許サズ誤字、脱字等ニ依リ訂正ヲ爲シタルトキハ本人又ハ主務者證印ヲ爲スモノトス但シ金額ノ訂正ヲ爲スコトヲ得ズ

第十九條 證憑書類ニ記載スル金員ノ數字ハ壹、貳、參、拾ノ字體ヲ用フベシ

第二十條 證憑書類ノ文字ハ鉛筆其ノ他消滅シ易キモノニテ記載スルヲ得ズ

第二十一條 帳簿ニ誤記ヲ爲シタルトキハ其ノ誤記セシ部分ヲ朱ノ二線ヲ畫シ其ノ上部ニ正書スベシ

誤記ノ部分金額ナルトキハ假令其ノ一部ニ止マル場合ト雖金額全部ヲ訂正スベシ

第二十二條 證憑書類ノ編纂ハ豫算科目ノ順序ニヨリ款、項、目、附記ニ區分シ整理スベシ

第七章 帳簿

第二十三條 組合長ハ毎年度左記帳簿ヲ調製スルモノトス但シ二年度以上ニ涉リ繼續使用スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ年度毎ニ口座ヲ設クルモノトス

- 一、組合費徴收簿
- 一、收入命令簿
- 一、支出命令簿
- 一、豫算差引簿
- 一、歳入簿

一、歳出簿

一、現金出納簿

一、資金前渡整理簿

一、備品臺帳

一、出張命令簿

一、郵便切手受拂簿

前項ノ外組合長ニ於テ必要ト認ムルトキハ補助簿ヲ設ケ整理スルコトヲ得

第二十四條 帳簿ノ記帳ハ證憑書類ニ依リ之ヲ爲スベシ但シ證憑書類ニ依リ難キモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條 本細則ニ依ル帳簿其ノ他ノ様式ハ組合長ノ定ムル所ニ依ル

附則 (昭和十六年市職員共濟組合公示第八號)

本細則ハ京都市職員共濟組合會計規程施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

京都市職員共濟組合積立金規程

- 第一條 本組合ハ其ノ事業ノ遂行若ハ擴張ニ要スル經費ニ充ツル爲積立金ヲ設置ス
前項ノ積立金ノ收支ハ特別會計トス
- 第二條 前條ノ積立金ハ本組合ノ普通經濟ヨリ受入レル積立金、京都市職員共濟組合會計規程第四條但書ノ規定ニ依ル積立金、本積立金ヨリ生ズル收入其ノ他ノモノヲ以テ之ヲ積立ツルモノトス
- 第三條 本積立金ハ第一條ノ目的ノ費途ニ充當スルノ外之ヲ使用スルコトヲ得ザルモノトス

京都市職員共濟組合金融規程

- 第一條 本組合員ニシテ組合加入後六ヶ月以上經過セル者ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ金員ヲ融通ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ金員ノ融通ヲ爲サザルモノトス又既ニ融通ヲ受ケタル組合員ニ對シテハ之ヲ取消スコトアルベシ
- 一、給料其ノ他ノ給與金債權ヲ處分シ又ハ其ノ差押若ハ假差押ノ處分ヲ受ケタルトキ
- 二、電氣局共濟組合ヨリ金員ノ融通ヲ受ケタルトキ

- 第二條 組合員一人ニ對スル金員ノ融通ハ其ノ當時本市ヨリ受クル給料月額ノ三倍ニ相當スル金額以内トス但シ組合長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ給料月額ノ五倍ニ相當スル金額迄融通スルコトヲ得
- 第三條 金員ノ融通ヲ受ケントスル者ハ所屬長經由ノ上所定借入申込書ヲ組合長宛差出シ其ノ承認ヲ受クベシ
- 第四條 前條ノ承認ヲ受ケタル者ハ直ニ連帶保證人二名ト連署シタル借用證書ヲ組合長宛差出スベシ但シ規程第二條但書ニ依ル融通ニ付テハ連帶保證人ノ員數ハ之ヲ三名トス
- 第五條 連帶保證人ノ中一名ハ現ニ引續キ三年間京都市ノ雇員以上ノ職ニ在ル組合員ニシテ本組合ヨリ金員ノ融通ヲ受ケザル者タルノ外第一條但書各號ニ該當セザルコトヲ要ス
- 前項ノ資格ヲ有スル者ト雖其ノ融通ヲ受ケタル本人ニ於テ完済セザル期間中ハ他ノ保證ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第六條 連帶保證人其ノ資格ヲ喪失スルニ至リタルトキ若ハ組合長ニ於テ適當ナラザル

者ト認メタルトキハ直ニ之ヲ補充又ハ交替セシム

第七條 融通セシ金員ハ其ノ融通ヲ爲シタル月ノ翌月ヨリ起算シ十八月以内ニ於テ毎月給料支給日ニ之ヲ均分返濟セシム

組合長ニ於テ已ムヲ得ザル事由アリト認ムルトキハ前項期間ヲ更ニ六月延長スルコトヲ得但シ應召若ハ入管ノ爲特ニ返濟ノ期日ノ延長ヲ希望スル者ニ對シテハ其ノ應召又ハ入管ノ期間ヲ前二項ニ依ル期間計算ヨリ除外ス

第八條 金融ノ利息ハ壹百圓ニ付日步壹錢トス

前項ノ利息ハ融通當日ヨリ返濟ノ日ノ前日迄之ヲ附シ錢位未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツルモノトス

前條但書ニ依ル除外期間中ハ本條規定ノ利息ヲ免除ス

第九條 償還金及利息ハ毎月給料日ニ於テ組合員ノ給料其ノ他諸給與金又ハ組合ヨリ支給スベキ給付金等ヨリ之ヲ控除シ所定納付書ヲ以テ遲滞ナク納入セシムルモノトス

第十條 資金ノ融通ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ返濟期限ノ到來前ト雖未返濟金ヲ直ニ辨濟セシムルモノトス

- 一 組合員タル資格ヲ喪失シタルトキ
- 二 第一條第一號及第二號ニ該當シタルトキ
- 三 組合長ニ於テ不正行爲又ハ其ノ他特別ノ事由アリト認メタルトキ

附 則

本規程ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

京都市職員共濟組合團體保險取扱規程

第一條 京都市職員共濟組合(以下單ニ組合ト稱ス)ハ組合員又ハ其ノ家族ノ保險契約ニ付團體取扱事業ヲ行フ

第二條 團體取扱ヲ受クベキ保險契約ハ組合ノ指定スル保險會社(以下單ニ會社ト稱ス)ト契約シ組合ノ承認ヲ經タルモノ又ハ既ニ指定ノ會社ト契約セルモノニシテ組合ノ承認ヲ經タルモノニ限ル

前項ノ會社ハ組合長別ニ之ヲ公示ス

第三條 組合員前條ノ取扱ヲ希望スルトキハ會社ヨリ交付スル團體取扱承認願ヲ所屬長

經由ノ上組合ニ提出スベシ

第四條 組合ハ會社ヨリ交付ノ原票(様式第一號)二通ノ中一通ヲ保管ノ上事務ヲ處理シ他ノ一通ハ當該組合員ノ所屬長ニ之ヲ送付スルモノトス所屬長ハ事務囑託ヲシテ前項ノ原票ニ依リ事務ヲ整理セシムルモノトス

第五條 組合ハ第一保險年度ニ在リテハ保險料及積立金ヲ、第二保險年度以降ニ在リテハ積立金ヲ毎月組合員ノ給料、手當其ノ他ノ諸給與及組合ヨリ交付ノ一切ノ給付金ヨリ之ヲ控除スルモノトス但シ給料、手當其ノ他ノ諸給與及給付金ガ控除額ニ達セザルトキハ翌月ニ於テ徵收ス

第六條 前條ノ保險料ノ金額ハ左ノ各號ニ依リ算定ス

一、會社トノ契約年拂ノモノニ在リテハ會社所定ノ年額保險料ノ十二分ノ一額
二、會社トノ契約半年拂ノモノニ在リテハ會社所定ノ半年額保險料ノ六分ノ一額
前條ノ積立金ハ第二保險年度以降ノ保險料ニ充當スルモノニシテ其ノ額ハ左ノ各號ニ依ル

一、會社トノ契約年拂ノモノニ在リテハ會社所定ノ年額保險料ノ十二分ノ一額

二、會社トノ契約半年拂ノモノニ在リテハ第一保險年度中ハ會社所定ノ半年額保險料ノ十二分ノ一額、第二保險年度以降ハ半年額保險料ノ六分ノ一額

第七條 組合ハ會社ヨリ收受シタル手數料ノ全部又ハ一部ヲ組合員ニ對シ割戻ヲナスモノトス

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ保險料ニ未拂分アルトキハ積立金ト相殺シ尙第五條本文ニ依ル控除ヲ以テスルモ更ニ不足ノ場合ハ本人又ハ其ノ相續人ヨリ直接之ヲ取立ツルモノトス

一、組合員組合規程第五條ニ依リ組合ヲ脫退シタルトキ

二、契約ノ解除又ハ失效ノ爲本規程ニ依ル團體取扱ヲ爲サザルニ至リタルトキ

第九條 團體取扱ヲ爲サザルニ至リタル契約者ノ積立金アルトキハ之ヲ契約者ニ拂戻スモツトス

前項ノ契約者ハ保險料積立金拂戻請求書(様式第二號)ヲ組合ニ提出シ拂戻ヲ受クベシ
第十條 保險契約満期又ハ被保險者死亡ノ場合ハ契約者又ハ其ノ代理人ハ其ノ旨所屬長經由ノ上組合ニ通知スベシ

第十一條 前各條ニ定ムルモノノ外本事業執行上必要ナル事項ハ組合長別ニ之ヲ定ム

附 則

本規程ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

京都市職員銃後會規程

第一章 總 則

第一條 本會ハ京都市職員銃後會ト稱シ京都市(區役所及學校ヲ除ク)職員之ヲ組織ス
第二條 本會ハ兵役法、徵發令、國民徵用令其ノ他ノ法令ニ依リ召集(教育召集演習召集、防衛召集ヲ除ク)入營又ハ徵發、徵用セラレタル會員並ニ其ノ家族ノ慰問其ノ他銃後ノ後援ヲナスコトヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ
一 第二條該當會員ニ對スル餞別金ノ贈與並ニ慰問
二 第二條該當會員ノ家族ニ對スル慰問
三 戰傷病會員ヘノ慰藉

四 戰傷病死會員及ビ其遺族ノ弔慰

五 其ノ他銃後ノ後援ニ關スル事項

第四條 會員左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ルトキハ脫會ス

一 死亡シタルトキ

二 退職シタルトキ

三 休職ヲ命ゼラレタルトキ(但シ現役入營ノタメノ休職者ヲ除ク)

第二章 役員及職員

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 會長 一名
- 副會長 二名
- 顧問 若干名
- 理事 若干名
- 常任理事 二名
- 監事 一名

第六條 會長ハ市長副會長ハ助役ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 會長ハ本會ヲ代表シ本會ノ事務ヲ統理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第八條 顧問ハ局部長及中央卸賣市場長ヲ以テ充テ重要會務ニ付會長ノ問ニ應ズ

第九條 理事ハ本廳各課長、廳長及市會書記長、人事課主事ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 理事ハ各所屬應召職員並ニ其ノ家族ノ慰問其ノ他必要ナル事業ヲ執行ス

第十一條 人事課長ノ職ニアル者ハ之ヲ庶務常任理事トシ人事課福利係主事ハ之ヲ會計

常任理事トシ常時會務ヲ掌理ス

第十二條 監事ハ考査役ヲ以テ充テ必要ニ應ジ會計檢査ヲナスモノトス

第十三條 本會ニ左ノ職員ヲ置ク

事務長 一名

事務員 若干名

事務囑託 若干名

事務長及事務員ハ會長之ヲ任命シ事務囑託ハ各課廳ノ俸給取扱主任者ニ付會長之ヲ囑

託ス

第十四條 事務長ハ上司ノ命ヲ承ケ會務ヲ處理ス、事務員及事務囑託ハ上司ノ命ヲ承ケ

會務ニ從事ス

第十五條 役員及職員ハ無報酬トス

第三章 會 費

第十六條 會員ハ左ノ區分ニ依リ毎月釀金スルモノトス但シ必要ニ應ジ之ヲ増減又ハ停

止スルコトアルベシ

一、年俸吏員給料年額ノ二千分ノ一

一、月俸吏員及職員給料月額ノ二百分ノ一

一、傭員(給仕ヲ除ク)給料月額ノ三分ノ一

前項ノ會費ハ毎月給料日若クハ其ノ翌日中ニ事務囑託之ヲ徴收シ様式第一號ノ拂込書

ニ依リ市役所内派出ノ市金庫事務取扱銀行ニ之ヲ拂込ムベシ

給料月額トハ日給者ニ在リテハ日給額ノ三十日分トス

第十七條 左ノ場合ハ會費ヲ免除ス

- 一、日給者ニシテ十五日以上病氣又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ缺勤シタル場合
但シ結核檢診ニ依ル出勤停止者ハ此ノ限ニ非ズ
- 二、月ノ中途ニ於テ加入又ハ脱退シタル場合
- 三、應召、入營、應徵シタル場合其ノ期間中（應召入營、應徵ノ月ヨリ解除ノ月迄）但シ既納ノ會費ハ之ヲ還附セズ
給料額ニ異動ヲ生ジタルトキハ總テ其ノ翌月ヨリ會費ヲ改定ス

第四章 贈與金

- 第十八條 左ノ各號ニ該當シタルトキハ夫々金員ヲ贈與ス
 - 一 會員入營、應召ノ場合 餞別金貳拾圓
 - 二 會員應徵ノ場合 餞別金拾五圓
 - 三 會員戰傷病ノ場合 見舞金五圓
 - 四 會員戰傷病死ノ場合 弔慰金參拾圓
- 但シ即日歸郷ヲ命セラレタルトキハ餞別金ノ返還ヲ受クルモノトス
- 第十九條 理事ハ其ノ所屬ニ於テ前條ノ各號ニ該當スル職員在リタルトキハ直ニ様式第

四號ニ依ル届出ヲ本會長宛ニナスベシ

第二十條 理事ハ其ノ所屬ニ於テ召集解除徵用解除、除隊又ハ即日歸郷ヲ命セラレタル者在リタルトキハ前條同様式ニ依ル届出ヲ直ニ本會長宛ニナスベシ

第二十一條 理事ハ第十九條ノ金員ヲ本會ヨリ假受ケシ之ヲ本人ニ手交スルト共ニ遲滯ナク領收書ヲ徵シ會長宛ニ提出スベシ

但シ會員戰傷病死ニ關スル弔慰金ハ左ノ順位ノ該當者ニ對シ贈與スルモノトス
一、民法九百五十五條ノ順位

二、埋葬執行者

第五章 財務

第二十二條 本會ノ經費ハ會費、寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第二十三條 本會ノ會計年度ハ市ノ會計年度ニ依ル

第二十四條 會計事務ニ關スル事項ハ會長別ニ之ヲ定ム

第六章 帳簿

第二十五條 會長ハ左記帳簿ヲ調製スルモノトス但シ二年度以上ニ涉リ繼續使用スルコ

トヲ得

- 一、應召者臺帳
- 一、入營者臺帳
- 一、應徵者臺帳

前項ノ外會長ニ於テ必要ト認ムルトキハ補助簿ヲ設ケ整理スルコトヲ得

附 則

本改正規程ハ昭和十八年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス
但シ本規程施行前ニ應召、入營又ハ應徵セシ者ニ對スル第十八條第一號及第二號ニ付キ
テハ改正前ノ規約ヲ適用スルモノトス

京都市職員銃後會會計規程

第一章 總 則

- 第一條 本會ノ會計ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 歲入出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

- 一、收入ハ總テ事實ノ生ジタルトキノ屬スル年度
- 二、支出ハ總テ支出命令ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二章 豫算及決算

- 第三條 會長ハ毎年度歲入出豫算書ヲ調製シ之ヲ顧問及理事宛通知スルモノトス
- 第四條 決算ハ出納閉鎖後一ヶ月以内ニ證憑書類ヲ併セテ會計常任理事ヨリ會長ニ提出スベシ

會長ハ監事ヲシテ前項決算書ヲ検査セシメ其ノ意見ヲ徴シタル後之ヲ顧問及理事宛通知スルモノトス

第三章 收入及支出

- 第五條 會費ノ收入ハ毎月給料ヨリ控除ノ上收入ノ手續ヲナスモノトス
- 第六條 事務囑託ハ會費ノ拂込ヲナシタルトキハ同時ニ様式第二號ニ依リ會費明細書二通ヲ作成シ一通ハ之ヲ保存シ他ノ一通ハ直ニ本會宛送付スベシ但シ其翌月以降ニ於テハ異動アリタル分ノミヲ異動明細書(様式三號)ニ記載シ明細書ニ代フルコトヲ得
- 第七條 收入命令、戻入命令、振替命令、更正命令及支出命令、還附命令ハ會長之ヲ會

計常任理事ニ對シ發スルモノトス

第八條 前條ノ命令ハ庶務常任理事ヲ以テ代行セシムルコトヲ得

第九條 特別ノ支出ニシテ支拂ヲ要スルモノアルトキハ五百圓以内ノ資金前渡ヲナスコトヲ得

前項ノ資金前渡ハ精算ヲ爲シタル後ニ非ザレバ再度請求ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 會計常任理事支出命令ヲ受ケタルトキハ其ノ内容調査ノ上支拂ノ準備ヲ爲スベシ

第十一條 豫備費ハ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得費目ノ流用ハ項迄トシ各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ズ

費目ノ流用又ハ豫備費ヲ支出セントスルトキハ會長之ヲ會計常任理事ニ通知スルモノトス

第四章 證憑書類其他帳簿

第十二條 證憑書類ノ金額ハ改竄ヲ許サズ、

證憑書類ニ記載スル金員ノ數字ハ壹、貳、參、拾ノ字體ヲ用フベシ

第十三條 本規程ニ別段ノ定メナキモノニ付テハ京都市ニ於ケル財務ニ關スル諸規程ヲ準用ス

第十四條 會計常任理事ハ毎年度左記帳簿ヲ調製シ之ヲ整理スルモノトス但シ二年度以上ニ涉リ繼續使用スルコトヲ得

一、歳入簿

一、歳出簿

一、現金出納簿

附則

前項ノ外會計常任理事ニ於テ必要ト認ムルトキハ補助簿ヲ設ケ整理スルコトヲ得

局 部 課 名

京都市職員銃後會會費拂込通知票

一金

但昭和 年 月分銃後會費

計	金額		職名 氏 名	金額		職名 氏 名
	會費	給料額		會費	給料額	
計						

局 部 課 名

樣式第三號

但昭和 年 月分銃後會費
京都市職員銃後會費異動報告

職名 氏 名	給料額	増減	異動	職名 氏 名	給料額	増減	異動

樣式第四號

昭和 年 月 日

京都市職員銃後會長 篠原英太郎殿

局 部 課 長 名

入營
應召
召集
即日
解除
即歸
鄉

職員報告ノ件

標記ノ件ニ關シ左記ノ通り報告候也

記

年月日	召集部隊	役	種	官等級	職名	氏	名	年齢	備	考

京都市職員國民貯蓄組合規約

一三四

- 第一條 本組合ハ國民貯蓄獎勵ノ趣旨ニ依リ戰時財政經濟政策ニ協力シ組合員一致團結シテ貯蓄報告ノ實ヲ擧グル爲貯蓄ノ勵行ヲ爲スヲ以テ目的トス
- 第二條 本組合ハ京都市職員國民貯蓄組合ト稱ス
- 第三條 本組合ハ京都市役所ニ勤務スル者ヲ以テ組織ス但シ運輸部、中央市場及區、麻勤務者ヲ除ク
- 第四條 本組合ノ事務所ハ之ノ人事課ニ置ク
- 第五條 本組合ハ第一條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ
- 一 組合員ノ郵便貯金、國債ノ買入、貯蓄債券又ハ報國債券ノ買入ヲ斡旋スルコト
 - 二 貯蓄計畫ヲ樹立シ之ヲ遂行スルコト
 - 三 貯蓄心ノ涵養ヲ圖ルコト
 - 四 其他目的達成上必要ナル事項
- 第六條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長	一名
理事	若干名
幹事長	一名
幹事	若干名

第七條 本組合ノ役員ハ無報酬トス

第八條 組合長ハ第一助役ヲ以テ之ニ充ツ

理事ハ局部長及局部ニ屬セザル課長ヲ以テ之ニ充ツ

幹事長ハ人事課長ヲ以テ之ニ充ツ

幹事ハ各課長ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 組合長ハ組合ヲ管理シ之ヲ代表ス

理事ハ組合長ヲ補佐シ所屬組合員ヲ代表ス

幹事長ハ組合長ノ旨ヲ承ケ組合ノ事務ヲ統合處理ス

幹事ハ組合長ノ旨ヲ承ケ所屬組合事務ヲ處理ス

第十條 左記各項ハ理事過半数ノ同意ヲ得テ之ヲ定ムルモノトス

一三五

- 一 組合同規約ノ變更ニ關スルコト
- 二 組合ノ解散ニ關スルコト
- 三 各年度ノ貯蓄計畫ニ關スルコト
- 四 其ノ他重要ト認ムル事項

第十一條 本組合ハ毎年度初ニ其ノ年度ノ貯蓄増加目標額ヲ設定シ之ニ基キ組合員ノ貯蓄増加目標額、貯蓄標準及貯蓄ノ方法等ヲ定メタル貯蓄計畫ヲ樹立スルモノトス
組合員ハ前項ノ貯蓄計畫ニ據リ貯蓄ヲ實行スルモノトス

第十二條 本組合ハ給料支給日ニ於テ前條ノ規定ニ依ル組合員ノ貯蓄金額ヲ給料支給額ヨリ差引キ組合員ノ名ニ於テ京都郵便局ヘノ郵便貯金ヲ爲スモノトス
本組合ノ幹旋ニ依リ買入レタル國債、貯蓄債券又ハ報國債券ハ京都郵便局ニ保管ヲ委託スルモノトス

第十三條 本規約ニ基ク組合員ノ貯金通帳ハ各幹事ニ於テ保管スルモノトス但シ組合員ハ幹事ニ請求シ自己ノ貯金通帳ハ之ヲ閱覽スルコトヲ得

第十四條 組合員不慮ノ災害其ノ他特別ノ事由アル場合ニ於テ組合長ノ承認ヲ得タルト

キハ第十二條ノ規定ニ依ル貯蓄ヲ一時中止シ又ハ脱退スルコトヲ得

第十五條 第十二條ノ規定ニ依ル郵便貯金ハ左ノ場合ノ外拂戻サザルモノトス 但シ左ノ場合ト雖モ据置キノ場合ハ一定ノ期間拂戻シスル事ヲ得ズ

- 一 退職ノ爲組合ヲ脱退シタルトキ
 - 二 特別ノ事由ニヨリ組合長ニ於テ一時組合ノ脱退ヲ承認シタルトキ
- 本組合ノ幹旋ニ依リ郵便官署ニ保管ヲ委託シタル國債、貯蓄債券又ハ報國債券ハ前各號ノ場合ノ外證券ノ交付又ハ賣却ノ請求ヲ爲サザルモノトス

第十六條 組合員ノ脱退ハ退職又ハ第三條但書ニ轉勤シタル場合若ハ特別ノ事由ニ依リ組合長ニ於テ承認シタル場合ニ限ルモノトス

第十七條 本組合ハ各課毎ニ左ノ帳簿ヲ備フルモノトス

- 一 組合名簿員
- 二 組合貯蓄臺帳
- 三 組合收支簿

第十八條 郵便官署ニ保管ヲ委託シタル國債、貯蓄債券又ハ報國債券ノ交付若ハ賣却ノ

請求ノ承認及組合員ノ組合脱退ノ承認ニ關スル證明ハ組合長印ヲ以テ之ヲ爲スモノトス

附 則

本規約ハ昭和十六年十月一日ヨリ之ヲ實施ス

京都市職員國民貯蓄組合事務取扱ニ關スル件

- 一、京都市職員國民貯蓄組合ニ關スル事務ハ本件ニ定ムル所ニ依リ各課毎ニ處理スルモノトス但シ統合的事務ハ幹事長之ヲ行フ
- 二、本市ニ在職スル職員（運輸部、中央市場、區、廢人職員ハ別途組織）ハ本組合ニ加入シ貯蓄計畫ニ基キ貯蓄ヲ爲スモノトス
- 三、貯蓄ノ方法ハ郵便貯金トス但シ普通又ハ据置ハ各自ニ於テ選擇自由トス
- 四、貯蓄額ハ給料月額百分ノ一以上ニ於テ可成高率ニ依リ一定シ一ケ年間同額ヲ以テ預金スルモノトス

但シ最低預金額ハ五十錢トシ十錢未滿ノ端數ヲ附セザルコト

五、現ニ國民貯金トシテ郵便貯金實行中ノモノニアリテハ集團貯金ニ組替ヘ本組合ニ合

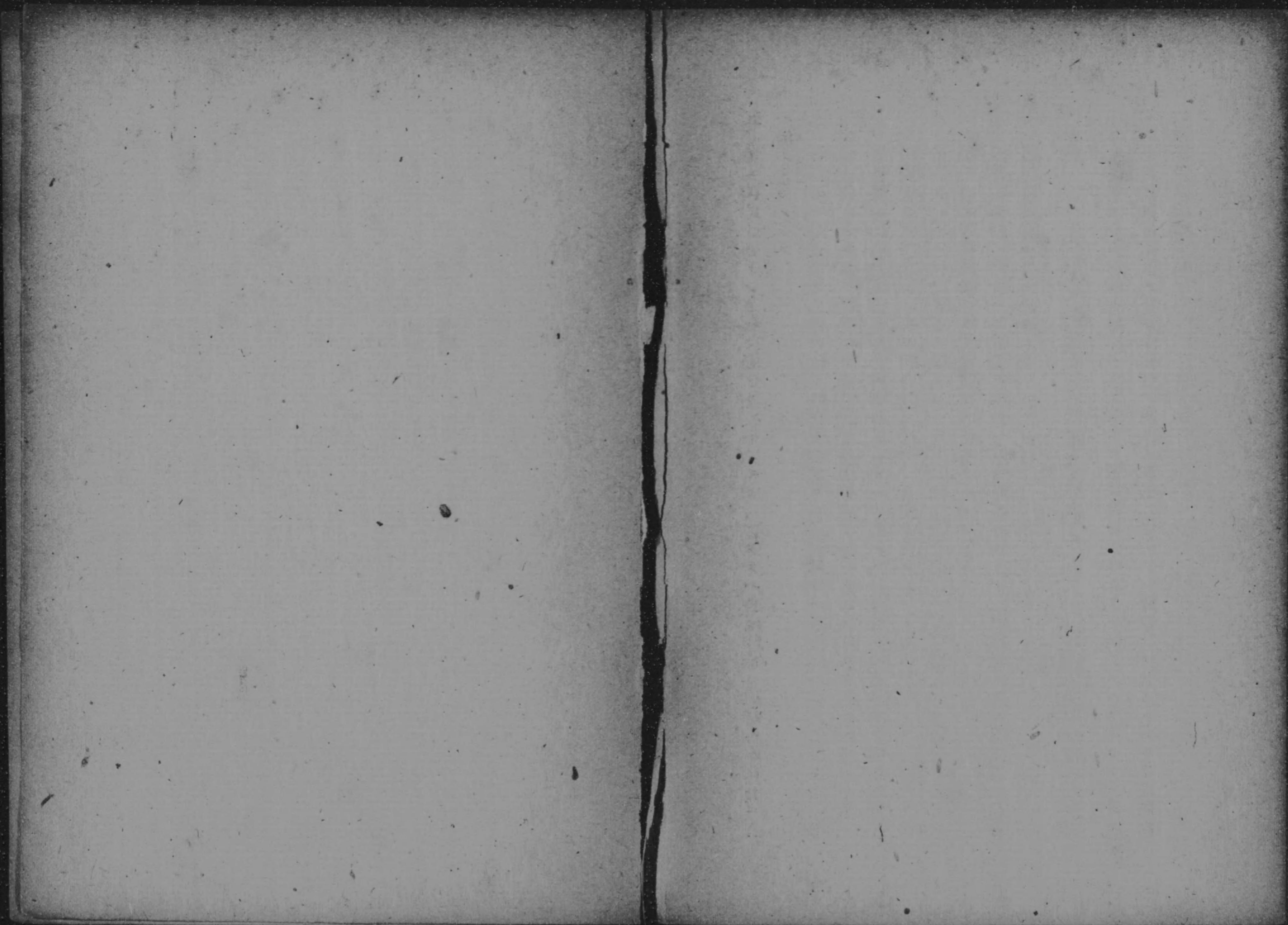
流スルモノトス

- 六、各幹事ハ規約第十二條ニ依リ給料支給額ヨリ差引キタル貯金額ハ當日午後通帳並明細表ト共ニ人事課ニ持參シ京都郵便局出張員ニ引渡シ受領書原符ヲ受クルモノトス
- 七、各幹事ハ組合員名簿及組合貯蓄臺帳其ノ一、其ノ二ヲ備付ケ所要事項ヲ明記シ毎月末明細表ト共ニ貯蓄臺帳ヲ組合長ニ提出シ査閲ヲ受クルモノトス
- 八、幹事長ハ別ニ組合貯蓄臺帳其ノ一及其ノ二（臺帳其ノ二ハ各課單位）ヲ備付ケ毎月末各課提出ノ貯蓄臺帳ニ依リ現在高ヲ登載スルモノトス
- 九、組合員轉勤ノ場合ハ幹事長ヲ經由シ組合貯蓄臺帳其ノ二ヲ通帳ト共ニ轉勤先ニ送付シ組合員名簿ニ其旨記録シ置クモノトス

陸軍々醫豫備員候補者處遇ニ關スル件

（昭和十九年五月二十九日
發人乙第二三九號助役通牒）

陸軍々醫豫備令第二條ノ規定ニ依リ陸軍々醫豫備員候補者ヲ志願シ之ニ採用セラレタル本市吏員職員ニ對シテハ爾今當分ノ間其ノ在營期間中特別賜暇ヲ與フルコトト相成候條依命此段及通牒候也





昭和十九年六月一日印刷
昭和十九年六月十日發行

(非賣品)

京都市役所人事課

編輯者兼代表者 梶浦竹三郎

京都市上京區下立賣小川東入

印刷者 中西勝太郎

發行所 京都市中京區寺町通御池上ル東入 京都市役所

